No.141

台湾地震災害救済
国際緊急援助隊救助チーム
報告書

平成11年12月

JICA LIBRARY
J1160127[5]

国際協力事業団
国際緊急援助隊事務局

緊
J R
99-5

台湾地震災害救済
国際緊急援助隊救助チーム
報告書

平成11年12月

国際協力事業団
国際緊急援助隊事務局

1160127(5)

序　　文

平成11年9月21日夜半（現地時間午前1時47分、日本時間午前2時47分）台湾にてマグニチュード7.6の地震が発生しました。これに対し、日本国政府は、同年9月21日、UNOCHA（国連人道問題調整事務所）からの要請に基づき、台湾地震災害に対して国際緊急援助を行うことを決定しました。

これを受けて国際協力事業団は、要請を受けた9月21日から9月28日まで、総勢110名からなる国際緊急援助隊救助チームを、2日間の間に3回に分けて派遣しました。

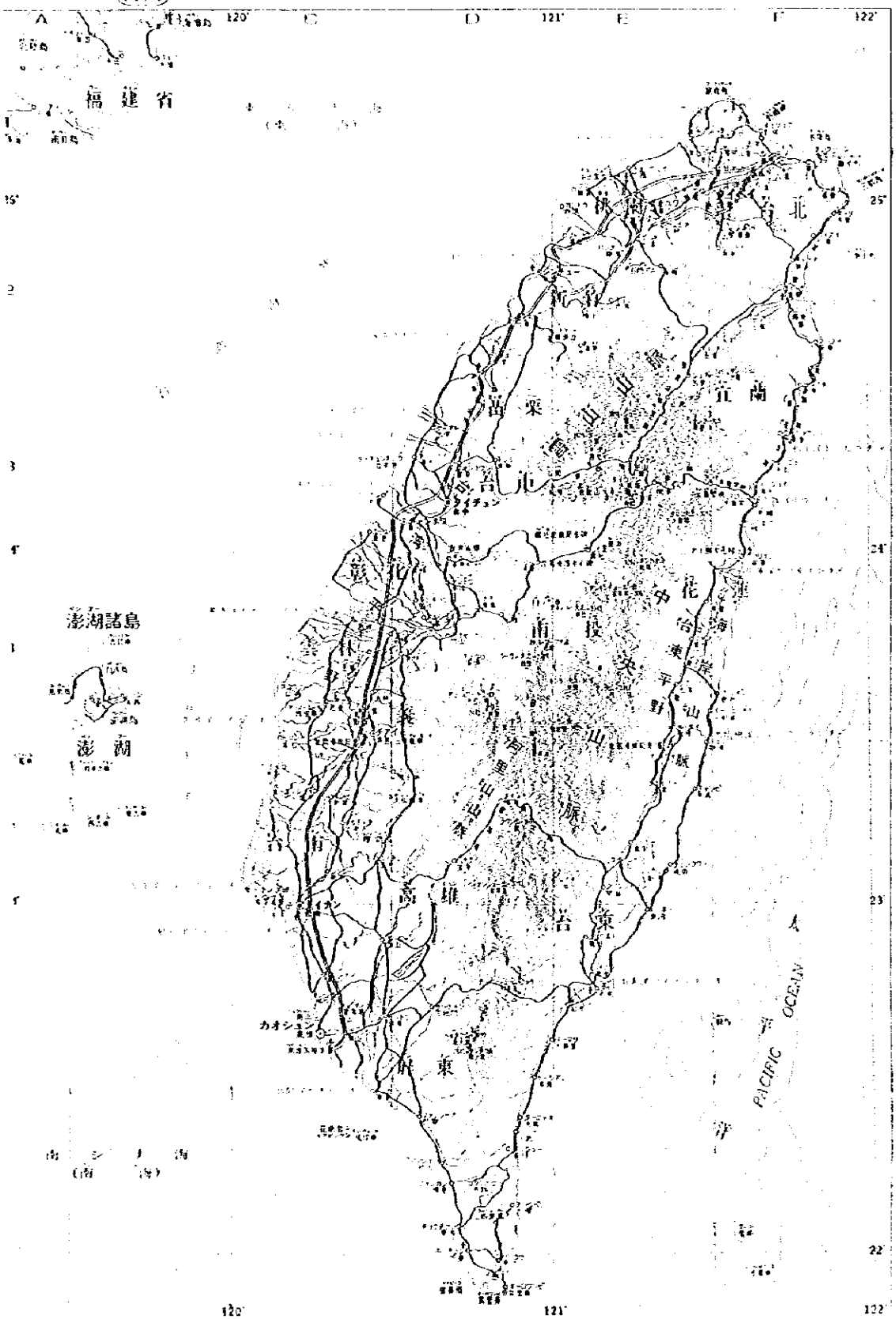
同援助隊は台湾北部から中部地域を中心に、被災者の探索、救出・救助活動を行い、帰国後その活動結果を本報告書に取りまとめました。

本報告書が、台湾側の今後の災害復旧に貢献するとともに、今後のわが国国際緊急援助活動の参考になることを期待します。

終わりに、今次国際緊急援助活動にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成11年12月

国際協力事業団
理事　阿部　英樹



福建省
澎湖諸島
澎湖
台北
宜蘭
苗栗
台東
高雄
台南
南投
中央山脈
台東平野
PACIFIC OCEAN
太平洋
カオシュン
南シナ海
(南海)
120°
121°
122°
25°
24°
23°
22°

写真１　結団式

写真２　被災地到着

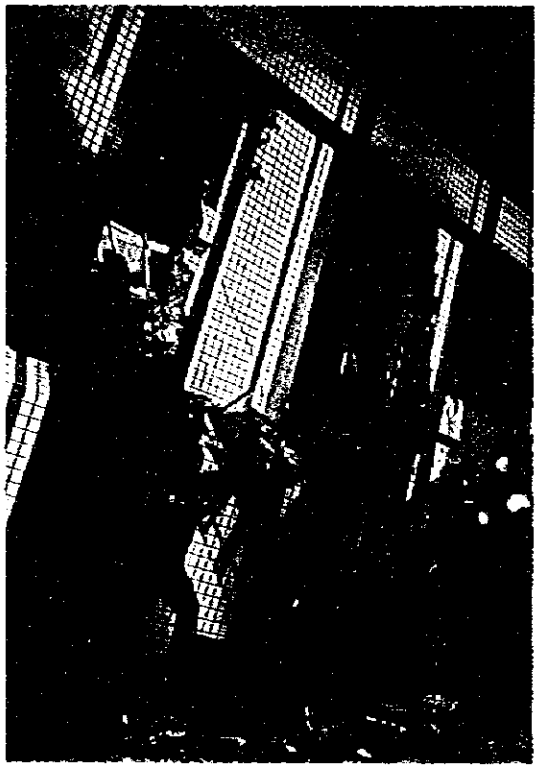


写真３　夜間の活動現場

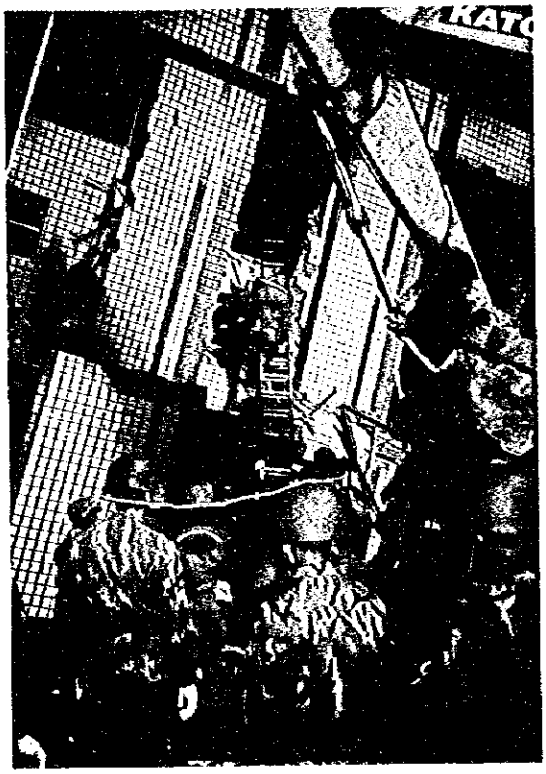


写真４　夜間の活動現場

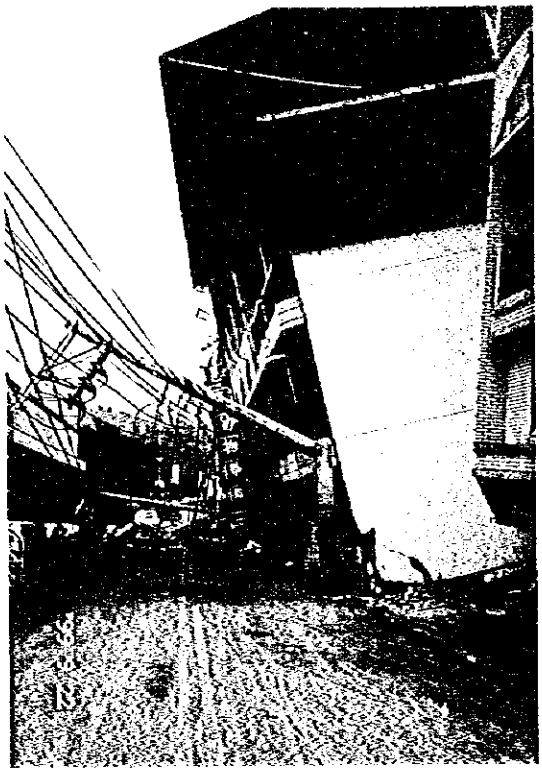


写真５　被災状況（台北）

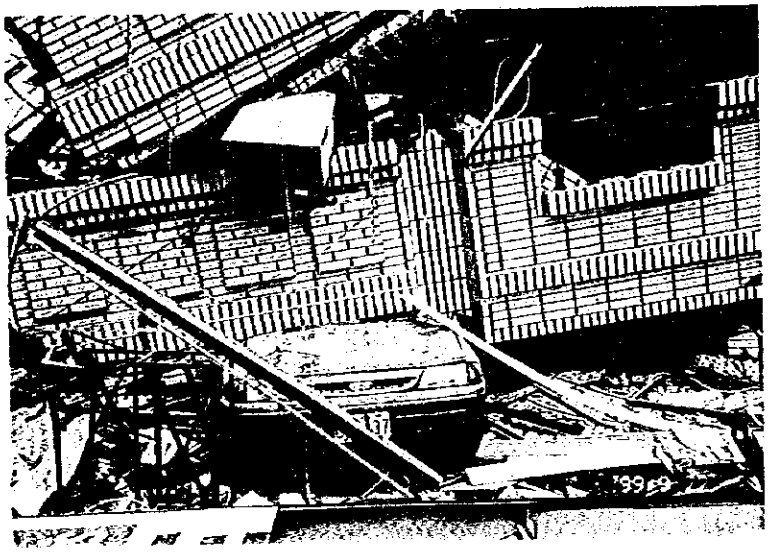


写真６　被災状況（台北）

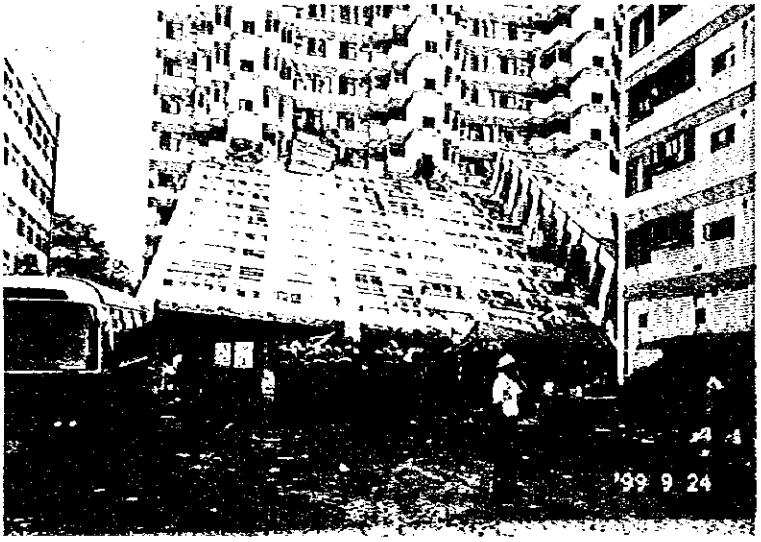


写真７　被災状況（台北）

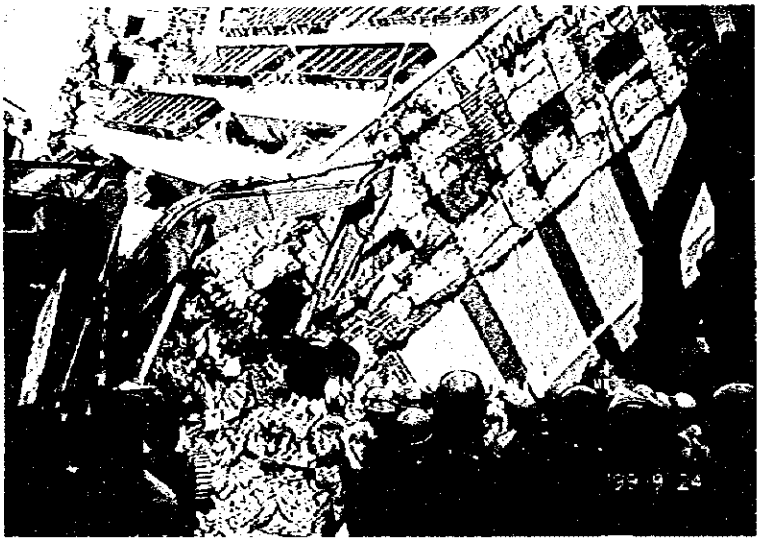


写真８　被災状況（台北）

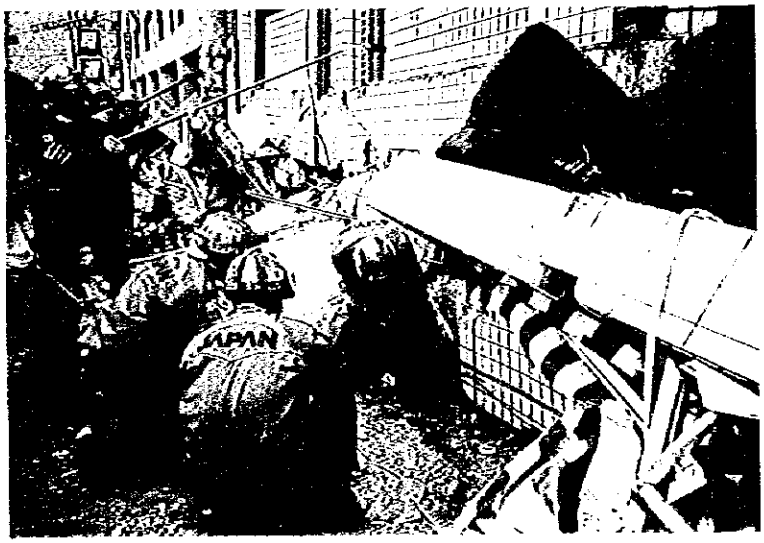


写真９　探索活動
（ストライカーとボーカメ）

写真 10　探索活動（ボーカメ）

写真 11　被災者救出

写真 12　被災者救出

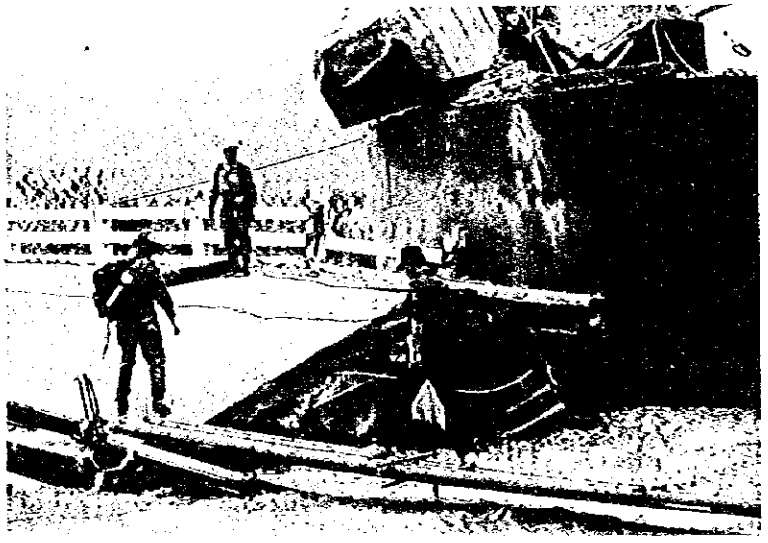


写真 13　被災地での移動

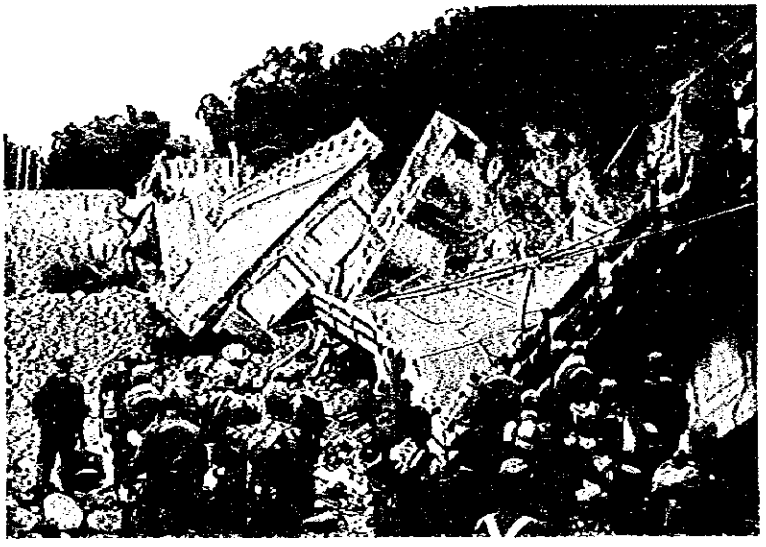


写真 14　被災地での移動

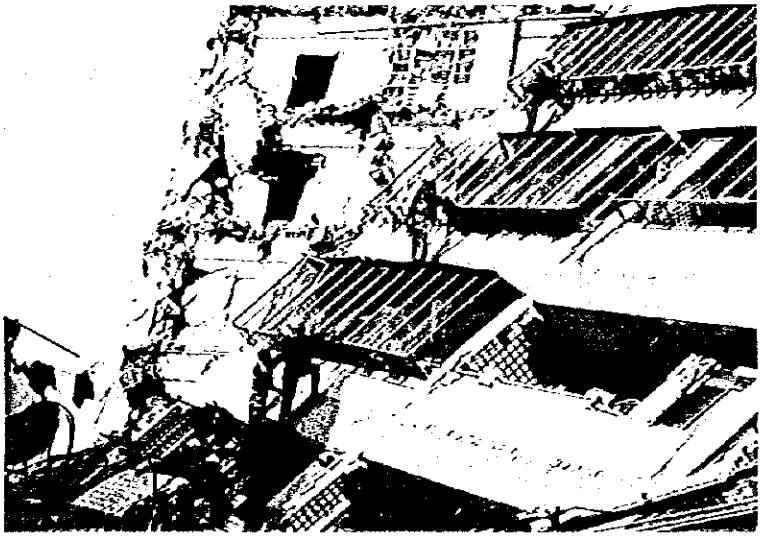


写真 15　倒壊した大型ビルを探索する

写真 16　倒壊した大型ビルを探索する

写真 17　被災状況（台中）

写真 18　被災状況（台中）

写真 19　被災状況（台中）

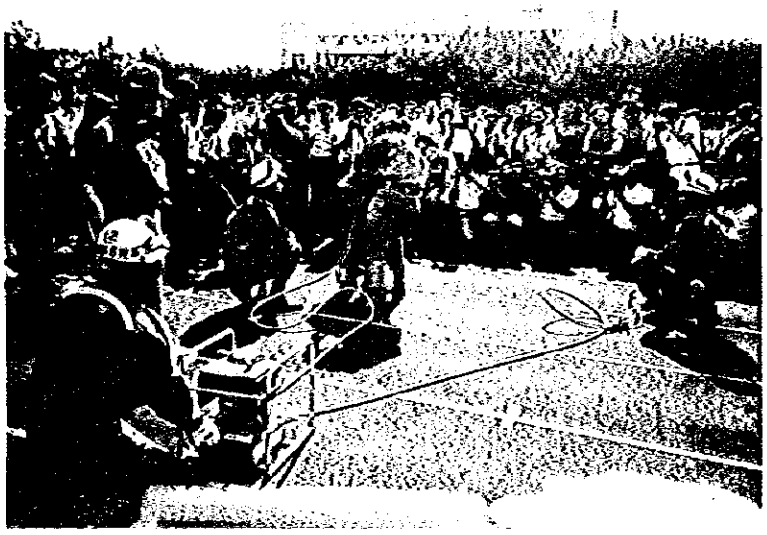


写真 20　デモンストレーション風景

目　　次

序　文
地　図
写　真

1．災害の概要 …… 1

2．派遣経緯 …… 2

3．隊員メンバーリスト …… 3

4．活動日程 …… 10

5．団長報告 …… 13
　5－1　活動概要 …… 13
　5－2　評価 …… 13
　5－3　台湾側の対応 …… 14
　5－4　他国チームとの協力 …… 15
　5－5　携行資機材のデモンストレーション …… 15
　5－6　その他 …… 15

6．台湾地震救出救助概要 …… 16

7．活動報告 …… 20

8．機材リスト …… 33

9．巻末資料　新聞記事 …… 38

1．災害の概要

1999 年現地時間９月 21 日午前１時 47 分（日本時間同日午前２時 47 分）ごろ、台湾中部の景勝地、南投県日月潭（にちげつたん）の西 12.5 キロ南投付近、深さ約１キロを震源とするマグニチュード 7.6 の地震が発生した。その後も余震（最大M6.8 を記録）が続き、台湾中部地域を中心に人的、物的両面で甚大な被害が生じた。

日本時間９月 21 日午後７時時点での報道機関による被害状況は、死者 650 人以上、負傷者 3,000 人以上、1,200 人以上が倒れた建物の下敷きになっているとされた。

最終的な被災状況概要は以下のとおりである。

死　　者：2,100 名以上

負 傷 者：8,700 名以上

全壊家屋：8,400 棟以上

半壊家屋：6,200 棟以上

（内政部消防局発表より）

2．派遣経緯

外務省は国際連合人道問題調整事務所（UNOCHA）からの要請を受け、大蔵省との協議を経て、9月21日21時25分に国際緊急援助隊救助チームの派遣指示を行った。

救助チームは、外務省、消防庁、警察庁、海上保安庁およびＪＩＣＡからの人員にて構成され、9月21日から9月28日まで活動を行った。

3．隊員メンバーリスト

第1陣（71名）

（1）白川　光徳（しらかわ　みつのり）団長
外務省経済協力局国際緊急援助室長

（2）北出　正俊（きたで　まさとし）
自治省消防庁

（3）鈴木　唯一郎（すずき　ただいちろう）
東京消防庁　司令長

（4）河村　良一（かわむら　りょういち）
東京消防庁　司令

（5）藤井　誠一郎（ふじい　せいいちろう）
東京消防庁　司令補

（6）榎本　暁（えのもと　あきら）
東京消防庁　司令補

（7）瀬戸　清（せと　あきら）
東京消防庁　司令補

（8）千葉　稔（ちば　みのる）
東京消防庁　司令補

（9）巻田　隆史（まきた　たかし）
東京消防庁　司令補

(10) 武藤　久（ぶとう　ひさし）
東京消防庁　士長

(11) 倉持　定美（くらもち　さだみ）
東京消防庁　士長

(12) 八城　国弘（やしろ　くにひろ）
東京消防庁　副士長

(13) 木村　久一（きむら　きゅういち）
東京消防庁　副士長

(14) 三宮　昭太（さんのみや　しょうた）
東京消防庁　司令補

(15) 山下　裕二（やました　ゆうじ）
鹿児島消防局　司令

(16) 松下　剛（まつした　つよし）

鹿児島消防局　司令補

(17) 末吉　安典（すえよし　やすのり）

海上保安庁警備救難部情報通信管理課主任通信運用官

(18) 土矢　一成（つちや　かずしげ）

第３管区海上保安本部羽田特殊救難基地特殊救難隊長

(19) 照屋　朝明（てるや　ともあき）

第３管区海上保安本部羽田特殊救難基地特殊救難隊員

(20) 和田　圭太（わだ　けいた）

第３管区海上保安本部羽田特殊救難基地特殊救難隊員

(21) 山本　祐睦（やまもと　まさちか）

神奈川県警機動隊巡査部長

(22) 新納　健弘（にいろ　たけひろ）

神奈川県警機動隊巡査部長

(23) 五十嵐　広海（いがらし　ひろみ）

神奈川県警機動隊巡査部長

(24) 小野寺　剛（おのでら　つよし）

神奈川県警機動隊巡査長

(25) 西岡　孝亮（にしおか　たかあき）

神奈川県警機動隊巡査長

(26) 近藤　隆之（こんどう　たかゆき）

神奈川県警機動隊巡査長

(27) 浅沼　英雄（あさぬま　ひでお）

神奈川県警機動隊巡査

(28) 猪狩　秀樹（いがり　ひでき）

埼玉県警機動隊巡査部長

(29) 廣田　貴大（ひろた　たかひろ）

埼玉県警機動隊巡査

(30) 遠藤　博和（えんどう　ひろかず）

埼玉県警機動隊巡査

(31) 佐々木　秀康（ささき　ひでやす）

埼玉県警機動隊巡査

(32) 福永　淳一（ふくなが　じゅんいち）

埼玉県警機動隊巡査

(33) 石岡　慎也（いしおか　しんや）

埼玉県警機動隊巡査

(34) 大澤　賢治（おおさわ　けんじ）

埼玉県警機動隊巡査

(35) 大嶋　文彦（おおしま　ふみひこ）

自治省消防庁

(36) 熊谷　光晴（くまがい　みつはる）

仙台市消防局司令補

(37) 小畑　真美（おばた　まさみ）

仙台市消防局消防士

(38) 伊香　修司（いこう　しゅうじ）

仙台市消防局司令補

(39) 小林　邦彦（こばやし　くにひこ）

仙台市消防局士長

(40) 濱田　康寛（はまだ　やすひろ）

京都市消防局司令

(41) 松野　芳則（まつの　よしのり）

京都市消防局士長

(42) 山本　昇（やまもと　のぼる）

京都市消防局士長

(43) 武村　直樹（たけむら　なおき）

京都市消防局士長

(44) 菊池　要二（きくち　ようじ）

松戸市消防局司令補

(45) 市川　敬章（いちかわ　のりあき）

松戸市消防局司令補

(46) 佐藤　治之（さとう　はるゆき）

川口市消防局士長

(47) 小倉　務（おぐら　つとむ）

川口市消防局司令補

(48) 杉原　庄一（すぎはら　しょういち）

倉敷市消防局司令補

(49) 名越　康雄（なごし　やすお）

倉敷市消防局士長

(50) 虻川　浩介（あぶかわ　こうすけ）

第３管区海上保安本部羽田特殊救難基地特殊救難隊副隊長

(51) 相田　浩一（そうだ　こういち）

第３管区海上保安本部羽田特殊救難基地特殊救難隊員

(52) 西村　善政（にしむら　よしまさ）

第４管区海上保安本部鳥羽海上保安部巡視船いすず機関士補

(53) 井上　裕行（いのうえ　ひろゆき）

第４管区海上保安本部鳥羽海上保安部巡視船いすず航海士補

(54) 中里　勝之（なかさと　かつゆき）

警視庁機動隊警部

(55) 滝沢　隆雄（たきざわ　たかお）

警視庁機動隊警部補

(56) 石田　隆輔（いしだ　あつお）

警視庁機動隊警部補

(57) 福山　豊和（ふくやま　とよかず）

警視庁機動隊巡査部長

(58) 須賀　和孝（すが　かずたか）

警視庁機動隊巡査部長

(59) 村上　正（むらかみ　ただし）

警視庁機動隊巡査部長

(60) 宮原　利夫（みやはら　としお）

警視庁機動隊巡査部長

(61) 安部　勇（あんべ　ゆう）

警視庁機動隊巡査部長

(62) 武田　泰典（たけだ　やすのり）

警視庁機動隊巡査部長

(63) 高橋　直樹（たかはし　なおき）

警視庁機動隊巡査長

(64) 今泉　勝吉（いまいずみ　かつよし）

警視庁機動隊巡査長

(65) 照澤　修臣（てるさわ　のぶおみ）

警視庁機動隊巡査長

(66) 森　哲也（もり　てつや）

警視庁機動隊巡査部長

(67) 高田　明則（たかだ　あきのり）

警視庁機動隊巡査長

(68) 秋田谷　直人（あきたや　なおひと）

警視庁機動隊巡査

(69) 高畑　恒雄（たかはた　つねお）

国際協力事業団農林水産開発調査部農林投融資課課長

(70) 小瀬川　修（こせがわ　おさむ）

国際協力事業団青年海外協力隊事務局派遣第三課課長代理

(71) 中澤　哉（なかざわ　はじめ）

国際協力事業団フィリピン事務局

第２陣（35名）

（1）大曽根　隆（おおそね　たかし）

東京消防庁司令長

（2）幾田　雅明（いくた　まさあき）

東京消防庁司令補

（3）吉岡　利之（よしおか　としゆき）

東京消防庁士長

（4）金野　秀行（こんの　ひでゆき）

東京消防庁副士長

（5）黒澤　勝（くろさわ　まさる）

東京消防庁士長

（6）佐藤　博（さとう　ひろし）

東京消防庁士長

（7）野崎　通男（のざき　みちお）

千葉市消防局司令補

（8）石川　敦（いしかわ　あつし）

千葉市消防局司令補

（9）秋葉　利行（あきば　としゆき）

千葉市消防庁士長

(10) 新保　敏之（しんぽ　としゆき）
新潟市消防局司令補
(11) 古山　透（ふるやま　とおる）
新潟市消防局士長
(12) 竹本　光信（たけもと　みつのぶ）
岡山市消防局司令補
(13) 森野　和直（もりの　かずなお）
岡山市消防局士長
(14) 太田　輝久（おおた　てるひさ）
佐世保市消防局司令補
(15) 吉田　安孝（よしだ　やすたか）
佐世保市消防局士長
(16) 平原　隆（ひらばる　たかし）
福岡県警機動隊警部補
(17) 山本　祐輔（やまもと　ゆうすけ）
福岡県警機動隊巡査
(18) 吉田　浩（よしだ　ひろし）
福岡県警機動隊巡査
(19) 野田　剛史（のだ　つよし）
福岡県警機動隊巡査長
(20) 川崎　昇平（かわさき　しょうへい）
福岡県警機動隊巡査
(21) 古城　彰義（こじょう　あきよし）
福岡県警機動隊巡査部長
(22) 前嶋　雅一（まえじま　まさかず）
福岡県警機動隊巡査
(23) 都甲　将世（とこう　まさつぐ）
福岡県警機動隊巡査
(24) 中田　勝康（なかた　かつやす）
京都府警機動隊巡査部長
(25) 牧野　健吾（まきの　けんご）
京都府警機動隊巡査
(26) 宮本　浩樹（みやもと　ひろき）

京都府警機動隊巡査部長

(27) 宮口　憲之（みやぐち　のりゆき）

京都府警機動隊巡査

(28) 杉本　昭一（すぎもと　しょういち）

京都府警機動隊巡査

(29) 天野　憲朗（あまの　のりあき）

京都府警機動隊巡査

(30) 太田　吉見（おおた　よしみ）

京都府警機動隊巡査部

(31) 小倉　章史（おぐら　しょうじ）

第三管区海上保安部羽田特攻救難基地特殊救救難隊員

(32) 松永　隆二（まつなが　りゅうじ）

第三管区海上保安部横浜海上保安部巡視船いず機関士補

(33) 木本　正人（きもと　まさと）

第七管区海上保安部福岡海上保安部巡視船はかた航海士

(34) 西地　昭一（にしじ　しょういち）

第七管区海上保安部福岡海上保安部巡視船はかた航海士

(35) 米山　薫春（よねやま　よしはる）

国際協力事業団

先遣隊から合流（4名）

（1）吉原　尚夫（よしはら　ひさお）

警察庁国際協力推進官

（2）野口　英毅（のぐち　ひでき）

海上保安庁国際協力係長

（3）吉田　悦教（よしだ　よしのり）

自治省消防庁

（4）江尻　幸彦（えじり　ゆきひこ）

国際協力事業団

4．活動日程

月　日	時　　刻	実施内容等
9月21日	1：47	地震発生
	14：00 （日本時間）	救助チーム（先遣隊）、羽田空港出発
	17：20 （日本時間）	第1次派遣隊、羽田空港出発
	19：00 （日本時間）	第2次派遣隊、羽田空港出発
	16：40	先遣隊、中正空港到着
	19：40	第1次派遣隊、中正空港到着
	21：40	第2次派遣隊、中正空港到着
	18：00	先遣隊、台北市松山ホテル倒壊現場着
	19：00	先遣隊、新荘市集合住宅ビル倒壊現場着
	23：00	第1次派遣隊、新荘市現場到着
	23：20	第2次派遣隊、新荘市現場到着
9月22日	0：00	新荘市現場で活動開始
	4：00	活動終了
	7：25	南投県対策本部（草屯）到着
	8：00	対策本部出発
	9：00 （日本時間）	第3次派遣隊、成田空港出発
	10：25	第1次及び第2次派遣隊、埔里鎮で活動開始
	11：25	第3次派遣隊、中正空港到着
	16：00	第3次派遣隊、南投県対策本部（草屯）到着
	16：45	第1次及び第2次派遣隊、活動終了
	18：45	第3次派遣隊、中寮郷到着
	20：00	第1次及び第2次派遣隊、南投県対策本部着
	20：00	第3次派遣隊、中寮郷で活動開始
	21：40	第1次及び第2次派遣隊、南投県対策本部出発
	22：30	第1次及び第2次派遣隊、中寮新村宿舎着
	23：30	団長及び本部隊員、中寮郷到着

月　日	時　　刻	実施内容等
9月23日	1：30	団長及び本部隊員、中寮郷出発
	2：10	団長及び本部隊員、第３次派遣隊、
	3：40	第３次派遣隊、中寮郷での活動終了
	4：10	第３次派遣隊、中興新村宿舎着
	6：45	中興新村宿舎出発
	7：30	南投県対策本部着
	8：25	第３次派遣隊、集集郷着後活動開始
	10：20	第１次及び第２次派遣隊、竹山鎮着後活動開始
	13：10	第３次派遣隊、集集郷の活動終了、竹山鎮に向け出発
	14：30	第３次派遣隊、竹山鎮着
	17：15	竹山鎮出発
	18：25	南投県対策本部到着
	18：45	南投県対策本部出発
	20：30	台中市宿舎到着
	21：45	宿舎内で活動総括及び今後の方針会議
	23：00	会議終了
9月24日	7：40	宿舎出発
	9：15	大里市集合住宅倒壊ビル現場到着、活動開始
9月25日	3：30	活動終了、仮眠
	6：00	大里市集合住宅倒壊ビル現場到着
	7：40	大里市集合住宅倒壊ビル現場出発
	9：00	台中市消防局到着
	9：20	豊原市内倒壊アパート視察
	10：50	東勢鎮集合住宅ビル倒壊現場到着、活動開始
	18：40	活動終了
	22：00	台中市の宿舎到着
9月26日	7：52	マグニチュード6.8余震発生
	8：40	台中市の宿舎に本部設営
	10：50	第１次派遣隊、大里市へ出発
	11：20	第１次派遣隊、大里市倒壊ビル現場到着
	11：30	第２次派遣隊、台北市へ出発

月　日	時　　刻	実施内容等
9月26日	12：05	第1次派遣隊、大里市倒壊ビル現場出発
	12：09	台中市本部閉鎖、団長及び本部隊員、第3次派遣隊台北市へ出発
	13：05	第1次派遣隊、東勢鎮到着
	13：50	第1次派遣隊、台北市へ出発
	14：12	団長及び本部隊員、第3次派遣隊、警察学校到着
		第3次派遣隊5名、警察学校でデモンストレーション実施
	14：30	第2次派遣隊、台北市松山ホテルビル到着
	15：30	団長及び本部隊員、第3次派遣隊台北市松山ホテル着
	20：30	第1次派遣隊、台北市松山ホテルビル到着
	22：00	松山ホテル倒壊現場での活動終了
	23：00	台北市宿舎到着
9月27日	9：00	宿舎にて幹部会議
	11：20	団長及び幹部等、内政部消防局表敬及び報告
	14：00	宿舎内にて幹部会議
	15：00	団長以下幹部、交流協会台北事務所報告
	15：20	資機材仕分け、点検
	18：00	活動総括
	19：00	亜東関係協会会長主催夕食会
9月28日	9：30	宿舎出発
	12：00	台湾中正空港出発
	15：45	羽田空港到着

5．団長報告

外務省経済協力局国際緊急援助室
白川　光徳

5－1　活動概要

災害発生当日 21 日の夕方から翌日早朝にかけて、3つのグループに分かれ次々と派遣されたわが国国際緊急援助隊救助チームは、21 日夜から 26 日真夜中までの延べ7日間（丸5日間余り）、台北市郊外の現場を皮切りに、今回の地震の震源地がある南投県に下り、同地域で転々と拠点を移動しつつ活動を行い、その後北上し、台中県、台北市へと活動を展開した。活動結果は8つの市と町で、活動場数 17 箇所、出動回数 32 回、検索箇所 85 箇所、発見者数8名、救出者数7名（うち生存者0名）であった。

5－2　評価

今次地震災害に対し、わが国は要請取付け等極めて能動的に対応し、警察庁、消防庁、海上保安庁および関係機関の迅速かつ積極的な協力を得て、先遣隊の派遣を皮切りに総勢 105 名（最終的に 110 名）というわが国際緊急援助隊救助チーム史上最大規模のチームを迅速に編成、派遣することができた。

チームは余震が続く中、建物倒壊の危険、高度な技術を要する困難な仕事、蒸し暑い気候等の厳しい条件にもかかわらず丸5日間余りにわたり、ゆるむこともなく昼夜を問わず肉体的能力の限界近くまで活動に邁進したが、個々の隊員の士気は極めて高く、評価されて然るべきと思う。（24 日、チームが手がけた半倒壊大型ビルは、半日余りの活動経過後、倒壊が進行していることが判明したため活動を中止せざるを得なかった。また、26 日活動中のフランスチームは余震により2名が負傷した。）

生存者救出者数が0名に終わったことについて、今次派遣ではマグニチュード 7.6 という大規模地震の災害で、大型チームを発災後 20 数時間という迅速さで被災地に派遣し得たことにより、生存者救出への期待が一般世論のみならず関係者の間でも大きなものがあると感じ、小官自身単にベストを尽くすだけではなく、結果を出すことに強いこだわりを持って臨んだ。この点で結果的には期待に沿うことができず、誠に遺憾であり、また、申し訳なく思う。

今次災害は、台北から南投広域に及び、日本チームには震源地を含む南投県が活動地域として与えられた。同地域が与えられた理由としては次のことが考えられる。

① 地震による被害は震源地周辺が最も大きいということが通例であること。

② この時点では、まだ南投県に外国チーム投入の予定が無かったこと。

③ 台中県については、アメリカ、シンガポールの援助隊が台中に直接、空路で到着する予定

であったこと。

南投県は、全体として大きな被害を受けていたが、被災地の特徴は以下のとおりであり、生存者救出につながる機会を得るのは極めて困難であった。

① 建物の２階部分が１階部分を押しつぶす倒壊形態が多く、１階部分の住人の生存が極めて困難なケースが多かったこと。

② １階以外の部分の住人については、地元消防、警察、自主防災組織等により、いち早く救助されていたこと。

南投県地域での活動が終了した後、新たな活動現場を求めて北上した。その際に、台中県都市部の、既に幾つかの外国チームが手をつけて去った後の大型ビルの半倒壊現場で、要救助者が残されている可能性があるとして、日本の高度な機材を活用した探求・救助活動の要請があった。活動に着手した日本チームが相当数の隊員を迅速かつ統率よく各所に配置し、各種資機材を使用してポイントを絞り込み、短時間のうちに要救助者を発見した。この台中県の現場では、倒壊建物を複数のエリアに分別しての、探索・救助活動が進められた。この結果、日本チームが分担したエリアでは生存といった形での救助例は見られなかった。（韓国チームが担当したエリアでは生存者を発見、救助した。）これは、たまたま担当したエリアに生存者がいなかったということであり、技術能力や士気とは異なる要素によると考えている。

マスコミの評価について、台湾各紙、テレビ各局は連日日本のレスキュー活動を大きく報じた。主な内容としては、各国チームの中で日本チームが最大規模であったこと、最も早く被災現場に到着し迅速な活動を開始したこと、専門的技術の高さと人命救助の精神に、台湾側レスキュー人員のみならず台湾民衆の敬服と感動を呼び起こしていること等が報じられた。

５－３　台湾側の対応

外交部次長、亜東関係協会会長による空港出迎え、台中市の現場における李登輝総統の日本チーム視察、南投県災害対策本部における県知事、内政部次長の挨拶、埔里市における参謀総長の挨拶、軍情報所長の竹山市の日本チーム訪問、消防庁長官による引見、贈り物等随所で台湾当局側の日本（チーム）に対する配慮が感じられた。

亜東関係協会および消防庁の職員複数名が、日本チームの全行程に同行し、各地での地元関係者との調整、新たな活動現場を見つけるための情報収集、連絡調整等にあたったが、彼らは極めて熱心かつ精力的な動きを示した。

5－4　他国チームとの協力

台中県大里市で、既に生存者を発見し救出作業中の韓国チームから、後着し地元の要請により近くの区域で活動に入った日本チームに対し、韓国チームの救出活動に影響があるとして日本チームの活動の一時中断と機材借用の要請があり、わが方はこれに全面的に協力した。

25 日、未発見被災者の１人に邦人が含まれていると推定された東勢鎮のビル倒壊現場は、ロシアチームが２日間にわたり全面的に担当して救助活動の最終段階にあり、重機が待機している状況であった。わが方より一部なりとも参加させてほしい旨強く要請したところ、ロシアチームはこれを受け入れ、わが方は一部区域の検索活動に入った。その後、重機活動開始の時間が迫った頃、ロシア側より共同作業の提案を受け、同チームが発見した最後の遺体の救出にわが方は全面的に協力した。結果的に、この遺体がそれまで未発見であった邦人であることが救出直後に判明した。

5－5　携行資機材のデモンストレーション

26 日午後、外交部が消防庁からの強い要望により、台北より南南東へ約１時間の場所にある国立警察大学校において、携行資機材の一部のデモンストレーションを行った。

同日朝強い余震があり、これに伴う救助活動のニーズが発生することも予想されたので本件中止を申し入れたが、台湾側は、将来の災害救助の幹部を要請している同大学での日本チームの資機材紹介はまたとない機会であり、極めて重要であるとして重ねて要請があったため、人数（５人）、時間（約１時間）を大幅に縮小した上でこれを行った。

学長自ら極めて熱心で、また、多くの地元マスコミ関係者が取材し、関心の高さが伺われた。

5－6　その他

救助チームの現地での活動においては、先述のとおり台湾関係当局の積極的な協力があったほか、交流協会当地事務所からも常時複数の職員をチームに配置してもらう等様々な手厚い支援をいただいた。

6．台湾地震救出救助概要

（32回出場、85箇所検索し８名を発見、７名を救出）

1　活動時間

現地時間　平成11年９月21日　23時00分～　９月27日13時00分

日本時間　平成11年９月21日　24時00分～　９月27日14時00分

134時間（うち、現場における実活動時間：68時間25分）

2　活動区域

台湾　南投県、台中県、台北県及びその周辺

3　活動体制

現地では、指揮系統を重視した活動の徹底を図り、消防・警察・海上保安庁合同の部隊編成を確立し、隊内の連絡、報告等も円滑に行われ、効率的な人命検索救助活動を行うことができた。

また、台湾、韓国、ロシアの各国救助隊と協力しての救助活動も積極的に行った。

4　連絡手段

被災地での有線電話障害のため、衛生電話による連絡が主となった。通信が途中中断することもあったが、現地携帯電話の活用等で補完し、比較的スムーズな連絡体制が確保できた。

5　活動概要

日	出　場	検索箇所	発　見	救　出	生存者
21日	２回	12箇所	０人	０人	０人
22日	９回	21箇所	５人	５人	０人
23日	５回	１箇所	１人	１人	０人
24日	３回	34箇所	２人	０人	０人
25日	７回	15箇所	０人	１人	０人
26日	６回	２箇所	０人	０人	０人
合計	32回	85箇所	８人	７人	０人

6　日本救助チームに対する台湾国内の反響等

（１）地震発生直後から台湾国内でも関心事となり、救助チームに対して通訳の申し入れ等の数多くの善意の声が届けられた。

（２）いち早く駆けつけた日本の救助チームに対して、どの現場においても感謝の意が寄せられ、また、積極果敢かつ礼儀正しい行動に関する報道が数多くなされた。

災害No.	活動開始日時	場　所	災　害　概　要　等	救助人員等	使用資機材	備　考
1	9月21日 23時00分	台北市 新莊市民安街 マンション	耐火造 12／2共同住宅の1階から3階が挫屈4階から上階が倒壊し、白煙が噴出し、居室内に 32 名の要救助者がいるとの情報で検索活動を実施した。	検索箇所：10 シリウス3ヶ所測定 救助なし	シリウス ボーカメ ストライカー	深夜 6 時間におよぶ検索活動を実施
2	9月21日 23時00分	台北県台北市 松山区 松山ホテル	耐火造 12／2複合の1階から8階が挫屈9階から上階が倒壊、各開口部から火災による白煙が噴出中であり、居室内に要救助者が多数いるとの情報であった。	検索箇所：2 （目視のみ） 救助なし	強力ライト 投光器	転戦命令により活動を中断 引き揚げ
3	9月22日 10時45分	南投県埔里市 中性市場	耐火造5／0店舗併用旧宅の1・2階が挫屈し、居室内に数名の要救助者がいるとの情報でボーカメ、シリウスを活用し検索活動を実施した。	検索箇所：3 シリウス3ヶ所測定 救助なし	シリウス、ストライカー 削岩機、鉄線鋏 ボーカメ	シリウス検索 3回実施し生体反応なし
4	9月22日 13時00分	南投県埔里市	耐火造3／0店舗併用住宅の全階が挫屈し、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索し、女性 1 名を発見、救出した。	検索箇所：2 発見1・救出1 （女　性）	シャベル ストライカー 強力ライト	地元住民、消防隊と連携し救助
5	9月22日 13時50分	南投県埔里市	耐火造4／0共同住宅の1階が挫屈し、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索し、女性1名を発見、救出した。	検索箇所：1 発見1・救出1 （女　性）	ストライカー、シャベル ボーカメ、バール 強力ライト、布担架	地元消防隊の情報により活動
6	9月22日 20時00分	南投県中寮郷	耐火造4／0住宅（2棟）の1階が挫屈し、2階以上の倒壊危険大、1階駐車場の乗用車内に要救助者がいるとの情報で検索活動を実施した。	検索箇所：3 救助なし	ストライカー バール 大ハンマー	2階床板を破壊し車両内を検索
7	9月22日 20時05分	南投県中寮郷	耐火造4／0住宅の1・2階が挫屈、1階居室内に女（85）1名が頭部、足部を梁、壁体に挟まれ脱出不能との情報で検索し、女性1名を発見、救出した。	検索箇所：1 発見1・救出1 （女　性）	電気ハンマードリル レスキューサポート レスキューツール	地元レスキュー専門ボランティアの協力を得て救出
8	9月22日 20時30分	南投県中寮郷	耐火造4／0共同住宅の1階が挫屈、1階居室内に男（74）1名が全身を壁体、床板に挟まれ脱出不能との情報で検索し、男性1名を発見、救出した。	検索箇所：2 発見1・救出1 （男　性）	削岩機、ストライカー ボーカメ、車両ジャッキ レスキューサポート	家族の情報から軍隊の協力を得て救出
9	9月22日 21時30分	南投県中寮郷	耐火造4／0店舗併用住宅の1階が挫屈、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索活動を実施した。	検索箇所：4 救助なし	削岩機、バール ストライカー ボーカメ投光器	深夜6時間におよぶ検索活動を実施
10	9月22日 23時10分	南投県中寮郷	耐火造2／0住宅の1階が挫屈、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索し、男性1名を発見、救出した。	検索箇所：2 発見1・救助1 （男　性）	削岩機 ストライカー ボーカメ	地元レスキュー専門ボランティアの協力を得て救出
11	9月22日 23時15分	南投県中寮郷	耐火造3／0住宅の1階が挫屈、2・3階は倒壊危険があり、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索活動を実施した。	検索活動：3 救助なし	削岩機 ストライカー ボーカメ	地元レスキュー専門ボランティアと合同で検索

災害No.	活動開始日時	場　所	災害概要等	救助人員等	使用資機材	備　考
12	9月23日 8時10分	南投県集集	耐火造4／0住宅の1階が挫屈、2階から上階は倒壊危険があり、1階居室内に要救助者がいるとの情報で検索し、男性1名を発見、救出した。	検索箇所：1 発見1・救出1 （男　性）	削岩機 ストライカー バール、大ハンマー	重機と連携をとり活動
13	9月23日 11時20分	南投県竹山郷桶（山間部） ヘリ	竹山から南に15km付近の桶頭山で住宅が倒壊し、8名が生き埋めになっているとの情報を得た。付近の橋が落下し車両での進入は不能であった。	検索箇所：0 救助なし	携行資機材 （ボーカメ、シリウス）	ヘリで現地入 現地において女性傷者1名を搬送拠点まで搬送
14	9月23日 11時30分	南投県竹山郷桶（山間部）	同　上	検索箇所：0 救助なし	携行資機材 （ボーカメ、ストライカー簡易救助器具）	医師、看護婦等と長距離歩行を実施
15	9月23日 13時30分	南投県竹山郷桶（市外地区南部）	同　上	検索箇所：0 救助なし	強力ライト	竹山地区南側住宅街をローラー検索
16	9月23日 14時15分	南投県竹山郷桶（市外地区北部）	同　上	検索箇所：0 救助なし	強力ライト	竹山地区北側住宅街をローラー検索
17	9月24日 9時10分	台中県大里市台中王朝マンション	耐火造12／2共同住宅（複合）の3階の一部が挫屈し、4階から上階は半ば倒壊した状態。建物内部に要救助者が約40名いるとの情報で検索活動を実施した。	検索箇所：20 シリウス7ヶ所測定 発見1・救出0（男性）	削岩機、ボーカメ、ストライカー、シリウス エンジンカッター等	傾斜測量実施、倒壊危険大につき活動中止
18	9月24日 9時10分	台中県大里市台中奇蹟マンション	耐火造11／2共同住宅が倒壊し建物内部に要救助者が多数いるとの情報で台湾の軍隊と共同で検索活動を実施した。	検索箇所：14 発見1・救出0 （女　性）	削岩機、ボーカメ、ストライカー、ロープ エンジンカッター等	軍情報に基づき未確認場所を重点に検索
19	9月24日 10時00分	台中県東勢鎮東勢王朝マンション	耐火造12／2共同住宅の1階から3階が挫屈4階以上が倒壊し、居室内に日本人含む要救助者が数名いるとの情報が得られた。	検索箇所：0 救助なし	な　し	現場指揮本部にて情報収集・倒壊現場調査
20	9月25日 9時30分	台中県豊原市マンション	耐火造12／2共同住宅が倒壊し、隣の共同住宅を押し潰した現場で、要救助者は全て救出済との情報であった。	検索箇所：0 救助なし	な　し	情報収集を重点に活動
21	9月25日 10時25分	台中県東勢鎮東勢王朝マンション西側	耐火造12／2共同住宅の1階から3階が挫屈、4階以上が倒壊し、居室内に日本人含む要救助者が数名いるとの情報で検索及び救出活動を実施した。	検索箇所：5 救助なし	小綱、ロープ ボーカメ 強力ライト等	6階部分の検索を実施
22	9月25日 11時45分	台中県東勢鎮東勢王朝マンション南側	同　上	検索活動：4 救助なし	ボーカメ、削岩機 レスキューサポート ストライカー　等	倒壊危険の高い場所での活動

災害No.	活動開始日時	場　所	災　害　概　要　等	救助人員等	使用資機材	備　考
23	9月25日 13時20分	台中県東勢鎮 東勢王朝 マンション西側	No21・22に同じ	検索箇所：4 救助なし	ボーカメ ロープ	7階から9階部分の検索を実施
24	9月25日 13時20分	台中県東勢鎮 東勢王朝 マンション北側	同　上 （ロシア隊発見の要救助者をロシア隊と合同で救出）	検索箇所：0 発見0・救出1 （男　性）	30mロープ、小綱 安全帯、カラビナ 強力ライト	検死により、日本人の小野義行氏と判明
25	9月25日 13時40分	台中県東勢鎮 東勢王朝 マンション北側	同　上 （ロシア隊からの要請に基づき搬送支援体制を確立）	検索箇所：0 救助なし	な　し	
26	9月25日 17時20分	台中県東勢鎮 東勢王朝 マンション南側	同　上 （ロシア隊からの要請に基づき検索活動を実施）	検索箇所：2 救助なし	ボーカメ 強力ライト	倒壊危険の高い場所での活動
27	9月26日 10時45分	台中県大里市 金巴黎	7時52分南投県を震源とするM6.8の余震が発生し、台中県大里市金巴黎で活動中のフランス隊が3名受傷、派遣隊本部命令で第1中隊が応援出場した。	検索箇所：0 救助なし	な　し	最大級の余震であり台湾全土で5名死亡
28	9月26日 12時05分	台中県東勢鎮 東勢王朝 マンション	災害No.21と同現場でロシア隊から地下に要救助者がいるとの情報に基づき、第1中隊が派遣隊本部命令でNo.27から転戦。既にロシア隊撤退準備、重機活動中。	検索箇所：0 救助なし	な　し	現地対策本部命令で情報収集活動
29	9月26日 12時05分	台北市松山区 松山ホテル	災害No.2と同現場で重機が活動中であったが、調整のうえ、第2中隊がボーカメによる検索活動を実施した。	検索箇所：2 救助なし	レスキューサポート ボーカメ	重機と調整を図り人員を制限して検索
30	9月26日 14時00分	台中県東勢鎮 災害対策本部	派遣隊本部命令により第1中隊がNo.28から転戦。 現地災害対策本部を情報収集拠点として情報収集を行った。	検索箇所：0 救助なし	な　し	台湾全土の被災状況を確認した
31	9月26日 14時45分	台北県台北市 松山区 松山ホテル	災害No.2と同現場で重機が活動中であった。 第3中隊が現地災害対策本部からの要請に備えて人員、資機材の即出場可能な体制を確立した。	検索箇所：0 救助なし	な　し	情報収集及び現場交替
32	9月26日 16時10分	台北県台北市 松山区 松山ホテル	派遣隊本部命令により第1中隊がNo.30から転戦。 現地災害対策本部からの要請に備えて人員、資機材の即出場可能な体制を確立した。	検索箇所：0 救助なし	な　し	情報収集及び現場交替

7．活動報告

9月21日～22日分

●活動内容

先遣隊（5名）は、21日14時発ＣＩ－017便にて羽田空港を出発し、ほぼ定時に台湾中正空港に到着した。その後直ちに日本交流協会を通じて手配したマイクロバスに乗り込み、16時50分空港を出発し、車内にて現在の被害状況、台湾側の援助要請意向、他国の援助動向等を台湾側受け入れ窓口機関である亜東関係協会の関係者から説明を受けた。説明によれば、台中県は米国及びシンガポールの軍が援助担当として台湾入りする予定であり、日本の援助チームには台北市内の倒壊した12階建ての松山ホテル及び台北市近郊の新荘市内の倒壊ビルの生存者救出に当たって欲しい旨要請され、台北市に向かうこととした。18時頃松山ホテルの倒壊現場に到着し、現場責任者と面談し、日本側の救助チームの規模、持参する機材の説明を行った。しかし、現場ではクレーンやユンボ等の重機を使い、台湾側が既に救助活動を行っており、取り残されている被災者の人数は不明であるが、現在350名の台湾側レスキュー隊によって生存者の救出に当たっており、台北市消防局から現在のところ日本の救助チームの応援は必要としていない旨回答があった。

そのため、先遣隊は、直ちに新荘市のビル倒壊現場に向かい、19時頃到着し、現場の責任者と面会して状況を聴取したところ、倒壊したビルは「博主的家」という名前で、12階建ての3階部分から折れて完全に倒壊しており、12名程度がビル内に閉じ込められているとの情報があるとのことで、先方からも救助活動に協力して欲しい旨要請があったため、21日到着の救助チームの活動場所に決定した。

救助チーム第1次派遣隊34名は、羽田空港17時20分発ＣＩ－101便にて台湾入りしたが、出発時刻が遅れ、さらに台湾到着後の携行資機材引き取りに手間取ったため、23時頃新荘市のビル倒壊現場に到着した。現場到着後、直ちに資機材をトラックから降ろし、活動準備に取りかかり、午前0時過ぎに本格的に活動を開始した。

第2次派遣隊36名は、成田空港19時発ＮＷ－007便で台湾入りし、空港でＪＩＣＡフィリピン事務所から派遣された業務調整員と合流後、直ちに新荘市の現場に向かい、23時20分頃到着し、第1次派遣隊と合流して救助活動を開始した。

また、台北市の松山ホテルの現場から日本チームの高度な携行資機材を使って生存者の検索を行って欲しい旨の応援要請があり、1次派遣隊の内10名程度を現場に急行させた。しかし、当該現場では火災が発生しており消火まではビル内に立ち入ることができないので消火作業を見守っていたが、消火までには相当時間を要することが判明したため、ボーカメ等による検索作業を断念し、新荘市の現場に午前3時30分に戻った。

新荘市の現場では午前1時30分頃から雨が降り出したにもかかわらずチームは活動を続け、午

前３時過ぎ倒壊したビルの内部に生存者がいるか確認のため電磁波人命探査装置（シリウス）によって検索したが、生存者の生体反応は確認できなかった。

このため、午前４時頃、当該現場での活動を終了し、台湾側との協議により震源近くの南投県の災害現場に向かうことが決まり、具体的な活動場所については草屯の対策本部で指示を受けることになった。

午前４時過ぎ、チームは大型バス２台、マイクロバス１台、トラック３台を連ねて、南投県に向かった。

●活動成果

発見・救出なし

●今後の活動日程・方針

草屯の南投県対策本部にて具体的活動場所が決定次第活動を開始する。

●特記事項

中正空港では、台湾外交部次長、亜東関係協会林会長、山下交流協会台北事務所長等の出迎えを受けた。

ビル倒壊現場では、ボランティアの人たちが多数活動しており、地元救助チームだけではなく外国救助チームにも食事や飲料水の供給サービスを行ってくれ、大所帯である日本チームにとって非常に助かっている。

以上

9月22～23日分

●活動内容

救助チーム一行（隊員75名、亜東関係協会、台湾消防当局及び交流協会関係者）は、午前7時25分草屯の南投県対策本部に到着した。直ちに、活動場所について先方と協議したところ、埔里鎮埔里にて生存者の救出活動を行って欲しい旨要請があり午前8時過ぎに対策本部を出発し、午前10時25分埔里に到着した。

埔里市街地の被害状況として特徴的なことは、1階、2階部分が完全につぶれて3階以上はそれほど被害を受けずに残っている中層建物（4～6階建て程度）が、町のあちこちで見られた。

救助チームは第1次派遣隊と第2次派遣隊に分かれて、3～5階建ての集合住宅の1、2階の潰れた部分を中心に計10棟でボーカメ、シリウス、削岩機等を利用して検索・救出活動を行なった。

一方、団長以下本部詰め隊員は、埔里鎮の対策本部を午前11時15分に訪問し被災状況及び救助活動状況を聴取した後、主要な被災建物現場を地元の救助隊員の案内で視察し、チームの活動現場を探した。

救助チームは16時45分に現場での活動を終了し、埔里鎮の対策本部に活動報告をした後、草屯の南投県対策本部へ向かい、20時頃到着した。本部で本日の活動報告をするとともに、第3次派遣隊は既に南投県対策本部に到着し、南投県中寮郷の被災現場で救助活動中であることを確認した。また、チームの本日の宿舎は中興新村の「地方行政研修センター」に確保され、医療チームも同じ場所であることが対策本部から伝えられた。対策本部で夕食を取った後、21時40分に対策本部を出発し、団長以下本部詰め隊員はマイクロバスでボーカメ及び救助用資機材の一部を積み込んだトラックとともに中寮の第3次派遣隊の活動現場に向かった。その他の隊員は、大型バス2台で宿舎に向かい、22時30分頃到着した。なお、業務調整員は2名は、無線機及び衛星電話の充電のため対策本部に残った。

団長以下本部詰め隊員は、ボーカメ、ストライカー、削岩機等の資機材を携行して第3次派遣隊が活動中の中寮の現場に向かった。23時30分到着し、3次派遣隊関係者と打合せを行うとともに活動現場付近の被災状況を調査後、午前1時30分に中寮の現場を出発し、午前2時10分に宿舎に到着した。

第3次派遣隊35名は、22日午前9時発EG－205便にて成田を出発し、定時に台湾中正空港に到着後、直ちに交流協会の日本人職員及び台湾側の亜東関係協会職員とともに借り上げした大型バスに乗り込み、草屯の南投県対策本部に向かった。16時過ぎに対策本部に到着し、先方から中寮郷中寮で救助活動を行うよう要請され17時25分本部を出発し、18時45分に中寮市街地に到着、先遣隊による活動現場確認後20時から中寮郷永豊街にて活動を開始した。午前3時40分ま

で救助活動を行ったが、最終的に生存者がいないことが確認されたため、4時過ぎに中興新村の宿舎に到着したが、23 日も早朝から活動を開始することになっているため、敷地内に駐車した大型バス内で仮眠を取った。

当日の宿舎として確保された地方行政研修センターは、地震によって建物に亀裂が入っており水もでない状態であり、地震発生当日も研修が行われていた模様で、室内は家具や寝具が乱雑に散らかり研修生があわてて逃げ出した様子が伺えた。

●活動成果

埔里鎮　2名発見・救出（いずれも遺体）

中寮郷　3名発見・救出（いずれも遺体）

●今後の活動日程・方針

草屯の南投県対策本部を訪問し、23 日の活動場所を先方と協議を行い決定次第活動を開始する。

以上

9月23日分

●活動内容

救助チーム（隊員110名、亜東関係協会及び交流会関係者）は、午前6時45分中興新村の宿舎を出発し、午前7時30分に草屯の南投県対策本部に到着し、本日の活動場所について先方と協議したところ、竹山鎮及び集集郷にて救助活動を行うよう要請があり、第1次及び第2次派遣隊は竹山鎮へ向かい、第3次派遣隊は集集郷へ向かった。

第1次及び第2次派遣隊は、10時20分竹山鎮の対策本部がある消防署を訪問し、被災状況及びチームの活動場所等について先方と協議した。その結果、桶頭山付近の山岳地帯で地震による山崩れにより、相当数の被災者が生き埋めになっている模様であるが、道路が寸断されているため大型バスでは現場に向かうことは困難であるとの説明があった。このため、チームは副団長他5名の先遣隊を派遣することにし、先方は軍のヘリコプターで現場まで輸送してくれることになった。また、20名をマイクロバスと徒歩により陸路派遣したが、現場は救助活動の必要性がないことが判明し、対策本部のある消防署に戻った。午後からは大型バスを使って竹山鎮の被災現場を調査した。

第3派遣隊は午前8時15分集集郷の被災現場に到着し、直ちに救助活動を開始した。12時50分に男性1名を救出した後13時10分に竹山へ向け出発、14時30分過ぎ竹山郷対策本部のある消防署に到着した。

17時15分竹山の対策本部を出発し18時25分草屯の対策本部に到着。台湾側と打ち合わせを行い、南投県には日本の救助チームに対するニーズがないことを確認した。また、同本部で台湾内政部次長及び警察副署長に南投県での救助活動終了について挨拶をした後、18時45分に対策本部を出発して本日の宿舎である台中市内の福華大飯店に20時30分到着した。チェックイン後、21時45分から会議室にて幹部30名程度が集合し、これまでの活動についての総括及び今後の活動方針についての協議を23時まで実施した。

●活動成果

集集郷　1名発見・救出

●今後の活動日程・方針

草屯の南投県対策本部を訪問し、23日の活動場所を先方と協議を行い決定次第活動を開始する。

以上

9月24日～25日分

●活動内容

救助チームは、午前7時40分台中市内の宿舎を出発し、台中県霧峰消防署を訪問した際、先方から台中県大里市内の集合住宅ビル崩壊現場で救助活動を行うよう要請があり、午前9時15分現場に到着した。現場は12～13階建ての集合住宅が林立している地区で、道路を挟んで2つの12階建ての集合住宅が倒壊しており、東側のビルは2、3階部分から折れてほぼ仰向けに倒れ上部が後ろのビルに支えられている状態であり、西側のビル（台中王朝大楼）は2階及び3階部分が潰れて上部が後方に倒れ、別のビルにぶつかって支えられているが、この支えているビルも下層階が潰れて10～15度傾いている状況であった。

チームは直ちに2班に分かれて救助活動を開始したが、西側のビルには生存者がいるという情報に基づき既に韓国の救助チーム側が地下部分で救助活動を実施していたため、機材を使った本格的な救助活動は地下部分の天井が崩壊するおそれがあるということで、韓国チーム側の要請に応じ、その活動終了まで見合わせることになった。一方、東側のビル倒壊現場では午前10時08分に地下部分で1名発見したが、救出は重機を使わないと困難であり生体反応もないため発見のみにとどめ、その後は生存者がいる可能性のある他の階において継続して捜索活動を行った。

チームの内9名は、日本人が遭難し閉じ込められていると見られる東勢鎮の集合住宅ビル（東勢王朝大楼）倒壊現場に救助活動のため向かい捜索活動を試みたが、現場が非常に危険な状況であり、更に重機で一部取り壊し作業を行っていたため、建物内に入って本格的な捜索活動ができないため引き返した。

西側ビル現場では、韓国の救助チームからの要請を受け救助資機材を貸与し同チームの救助活動を見守っていたが、17時過ぎ6歳の男子の救出終了を受け、救助チームは本格的に救助活動を開始した。20時過ぎ1名を発見しその救出と更なる捜索のため作業を続けたが、ビル自体の傾斜が進行している可能性を一部隊員から指摘があり、軍に要請し計測器を使い22時頃から1時間にわたり計測を行ってもらった結果、実際に傾斜が進んでおり倒壊の危険があることが判明したため、直ちに同ビルの活動を断念した。

チームは当該現場で翌25日午前3時まで救助活動を行い、午前3時30分撤収を終了し、活動現場から少し離れた場所で全員バスの中で翌朝まで仮眠をとった。

●活動成果

大里市内集合住宅2棟から1名ずつ計2名発見（いずれも遺体）、救出は断念。

●今後の活動日程・方針

台中消防署を訪問し、25 日は台中県の豊原市及び東勢鎮の災害現場の視察を行いつつ、先方から要請があれば救助活動を行う。

●特記事項

・救助チームが活動を行っている大里市内の「台中王朝大楼」ビル崩壊現場を台湾の李登輝総統が訪問し、チームを激励した。

・救助活動の横では、僧侶を伴った遺族とおぼしき人達によって読経が行われていた。

以上

9月25日分

●活動内容

救助チームは、起床後午前6時大里市内の集合住宅ビル崩壊現場に戻り、先方関係者に当該現場での活動を終了し本日は別の現場で活動を行う旨を伝え、午前7時40分出発し、午前9時過ぎに台中県消防局第1大隊に到着、先方関係者の案内により午前9時20分豊原市内の倒壊アパートを視察した。

その後、チームは午前10時50分東勢鎮の中心街にある11階建て集合住宅「東勢王朝大楼」のビル倒壊現場に到着した。当該現場では既にロシアの救助チームが活動を行っていたが、倒壊ビルには日本人が現在も救出されないまま建物内に閉じ込められているため、ぜひ日本チームもこの現場で救助活動に協力したい旨ロシアチームに申し入れたところ、ロシア側も承諾してくれたので捜索活動を開始した。

現場は、低層階が潰れており高層階は横倒し状態で隣の中層ビルに覆い被さって、いつ崩れるかわからない状況であり、救助活動が一段落着き次第重機で取り壊すためクレーン車やユンボが現場近くに待機していた。当初13時30分には重機による作業開始の予定であったが、台湾側、ロシア、日本及びその後到着した米国人、カナダ人の米州チームで合同会議を行った結果、ロシアチームの提案により同チームが発見していた最後の要救助者を共同で救出することになった。

17時過ぎ難行した救出作業が終了し、結果、先述した日本人の遺体を収容した。

（なお、米州チームは途中で撤退した。）

その後、チームは18時40分に当該現場の撤収作業を終了するとともに、当日の宿舎を台北市から台中市に変更し台中市内の4ヶ所のホテルに分宿することを決定して、台中市に向かい、22時頃に宿舎に入った。

●活動成果

東勢鎮中心街の集合住宅1棟から1名を救出（ロシアチームと共同）

●今後の活動日程・方針

明日はチーム主力は台北市に戻り、関係機関に報告を行い、帰国日程等について、協議する予定である。

●特記事項

活動現場が日本人が遭難したビルということもあって、多数の本邦及び地元マスコミが取材をしており、遺体収容後に団長や高畑業務調整員はインタビューを受けた。また、日本人の遺体を収容して救急車で輸送されるのを見送る際、救助チームは全員で犠牲者に対して敬礼を捧げ冥福を祈った。この行為に対し、集まっていた台湾人から日本の救助チームの礼の厚さを示すものとして賞賛の声があがった。

以上

9月26日分

●活動内容

救助チームは、台中市内4ヶ所に分宿したホテルをチェックアウトして午前8時30分に「福華大飯店」に集合するべく準備をしていた午前7時52分、台湾中部の日月潭付近を震源地とするマグニチュード6.8の激しい余震にあった。この余震は日月潭で震度6、台中市で震度4を記録した。台中市内では停電となり、ホテルをチェックアウトする際も階段で下りなければならなかった。「福華大飯店」に集合したチームは、この余震の被害状況の情報収集に当たったがその間連戦台湾副総統から外国チーム（日本、米国、シンガポールの救助チーム）はこの余震によって被害が発生した場合の救助活動をお願いしたいので帰国を待って欲しい旨の要請が亜東協会担当者を通じてチームに伝えられた。

このため、チームは「福華大飯店」の1室を借りチーム本部として、余震の詳細な被害状況の収集及び今後の活動計画の調整を行ったが、午前10時過ぎの余震による被害情報によれば、死者4名負傷者58名に上っているものの、新たに倒壊したビルはない模様とのことであった。

これを受け、チームは3班に分かれて（本邦出発順で第1次、第2次、第3次派遣隊とした）行動することを決定した。

第1次派遣隊は、午前10時50分頃大里市内の集合住宅ビル「金巴黎（キンパリ）」に救助活動を行うため向かい、午前11時20分現場到着した。既に当該ビルではフランスチームが早朝から救助活動を行っていたが、余震発生時に活動していた隊員1名が負傷、ビルも余震の影響で崩れかかっており、活動中止を決めていた。このため、日本チームが活動を行うことは困難と判断し、午前11時52分当該現場の引き揚げを決定した。その後、12時05分昨日の東勢鎮の「東勢王朝大楼」のビル倒壊現場に向かい13時05分到着した。当該現場ではロシアの救助チームも撤収中であり、特に活動する現場はないことが確認されたため、13時50分に同地を出発し、東勢鎮対策本部で情報収集した。その後、既に台北の松山ホテルビル倒壊現場にいたチーム本部からの連絡を受け、台北に向かい20時30分同現場に到着した。

一方、11時20分頃松山ホテルビル倒壊現場で発生から130時間ぶりで生存者が救出されたという情報を受け、他にも生存者がいる可能性もあり、日本チームは台湾到着日に現場を見ていることも考慮し、松山ホテルの現場で台湾側と一緒に救助活動することを決め、第2次派遣隊は午前11時30分に台北市に向け出発した。14時30分頃松山ホテルビルに到着し、台湾側と活動方法について打ち合わせを行った結果、日本チームの現場に立ち入る人数はボーカメによる検索を行う5名とすることで合意し、交替で活動を開始した。

第3次派遣隊及び団長以下本部詰め隊員は、前日に台湾側から桃園にある警察学校で救助資機材について将来救助関係のリーダーとなる学生に対して講義及びデモンストレーションをして欲

しい旨要請されたが、この日の大きな余震発生を受け、チーム側より中止の申し入れを行ったものの、先方より再度強い要請があったため、規模・時間を縮小して行うこととし、12 時9分に台中市のチーム本部を閉鎖して台北市への途中にある警察学校に向け出発した。

14 時 12 分警察学校に到着後、団長及び副団長は学長への表敬及び地元マスコミの記者会見に出席し、終了後直ちに主な第3次派遣隊の隊員とともに台北市内の松山ホテルに向かい 15 時 30 分に到着した。

第3次派遣隊5名は、警察学校に残り救助資機材の講義及びデモンストレーションを実施し、その後松山ホテルで本隊に合流した。

松山ホテルビル倒壊現場に集結したチームは、各派遣隊が3時間交替で徹夜の検索活動を行うことを決定し待機したが、22 時過ぎ台北市消防副局長がやってきて、当該現場は台湾側で完全に対処できる状況にあり、遅くまで協力してもらって大変ありがたいが、これ以上の支援をお願いする必要はないと思うのでお引き取りいただいて結構である旨伝えてきた。

これを受け、松山ホテルでの活動を打ち切り、23 時半頃撤収作業終了後、台北市内の宿舎に入った。

●活動成果

発見・救出はなし

●今後の活動日程・方針

関係機関と協議するとともに、具体的帰国日程を検討する。

以上

9月27日分

●活動内容

団長以下各省庁代表者による幹部会議を午前9時から開催し、今後の活動計画と帰国について打ち合わせた後、午前11時20分台湾内政部消防局長（日本の自治省消防庁長官に相当）に活動報告を行うとともに、新たに活動場所について照会した。これに対し、先方は既に全国的に調査した結果として、救助活動の支援をお願いしなければならないところはなくなった旨述べ、日本の救助チームのこれまでの活動に対する謝意を表明した。一方、この時点で米国、ロシア、シンガポール等殆どの外国チームが当日または翌日に帰国することが判明した。これらを受け、14時から幹部会議を行い9月28日にチーム全員で帰国することを決定し、午前中からホテルで待機していた一般隊員とともに携行した資機材の仕分け・点検・燃料抜き等の撤収作業を15時20分から実施した。団長以下各省庁代表者は15時から交流協会台北事務所を訪問して、山下所長以下に活動報告を行った。

18時よりチーム全員による活動総括を行った後、19時から亜東関係協会会長主催の夕食会に参加した（山下所長他も参加）。

●活動成果

発見・救出はなし

●今後の活動日程・方針

明日、台北12時発ＣＩ-100便にて帰国する。

●特記事項

亜東関係協会会長主催の夕食会の席上、林会長から日本チームに対し落涙しながら謝意の表明があり、チーム全員感激した。

以上

9月28日分

●活動内容

宿舎を9時30分にチェックアウトして台北中正空港に向かった。空港には10時30分に到着し搭乗手続きは順調に終了したが、機材の積み込みに時間がかかり、30分程度遅れて出発した。羽田空港には定刻より20分程度遅れて到着した後、機材の引き取り・仕分けを行い通関手続を済ませ、解団式の会場に向かった。17時50分頃から解団式を行い、終了後解散した。

●特記事項

救助チームが台北中正空港に到着し出発ロビーに入ると、ロビーにいた旅客及び空港関係者のほとんどの人から拍手によって感謝の意が表明され、チーム全員感激した。また、羽田空港では在京の台湾関係者を中心に多くの人の出迎えを受け帰国の感激を新たにした。

8．機材リスト

分類	機材番号	機材名	部品名・品番等	英語名称	在庫数量	L	W	H	重量 kg
活動	A0106	レスキューツールB(1/4)	パワーユニットGS-2Rエンジン	Power units GS-2R engine	1	59	59	93	100
活動	A0107	レスキューツールB(2/4)	スプレッターLSP-44C	Spreader LSP-44C	1	45	102	65	75
活動	A0108	レスキューツールB(3/4)	カッターLS-200B	Cutter LS-200B	1	34	103	65	75
			ﾊﾝﾄﾞﾎﾟﾝﾌﾟ ZiH10/18	Hand pumps ZiH10/18	1	-	-	-	-
活動	A0109	レスキューツールB(4/4)	コンビツールLKS35C	Combination tool LKS35C	1	37	115	43	64
活動	A0303	削岩機 C	ピオニア 121A	drilling machine [pionia121A]	1	32	51	91	65
活動	A0304	削岩機 D	ピオニア 121A	drilling machine [pionia121A]	1	32	51	91	65
活動	A1201	チェーンソー A	ハートナーP400	chain saw	1	27	47	31	7
活動	A1202	チェーンソー B	ハートナーP400	chain saw	1	27	47	31	7
活動	A1203	チェーンソー C	ハートナーP400	chain saw	1	27	47	31	7
活動	A1204	チェーンソー D	ハートナーP400	chain saw	1	27	47	31	7
活動	A1501	共通作業服（JDRユニフォーム）A	Mサイズ（上）	uniform	30	-	-	-	150
			Mサイズ（下）	uniform	30	-	-	-	-
			Lサイズ（上）	uniform	30	-	-	-	-
			Lサイズ（下）	uniform	30	-	-	-	-
			LLサイズ（上）	uniform	30	-	-	-	-
			LLサイズ（下）	uniform	30	-	-	-	-
			3Lサイズ（上）	uniform	30	-	-	-	-
			3Lサイズ（下）	uniform	30	-	-	-	-
			ベルト	uniform	90	-	-	-	-
			帽子（隊長用）	uniform	10	-	-	-	-
			帽子（隊員用）	uniform	120	-	-	-	-
活動	A1504	安全帯	ロックリトライト15	Safety belt	9	26	48	81	25
		カラビナ	O型ステンレス製	carabina	8	-	-	-	-
活動	A1510	安全帯	ロックリトライト15	Safety belt	10				20
活動	A1508	JDRヘルメット A	フリーサイズ	Helmet L	57	30	23	63	1
活動	A1509	雨合羽（上下）	M ゴアテックス製	raincoat	1	-	-	-	10
		雨合羽（上下）	L ゴアテックス製	raincoat	20	-	-	-	10
		雨合羽（上下）	LL ゴアテックス製	raincoat	20	-	-	-	10
活動	A1510	安全帯	ロックリトライト15	equipment for rescue	30	-	-	-	60
活動	A1804	携帯簡易画像探索器 C	MS-810F	equipment for rescue	1	-	-	-	10
活動	A1805	携帯簡易画像探索器 D	MS-810F	equipment for rescue	1	-	-	-	10
活動	A1903	地中音響探知器 C	ﾌｼﾞﾃｺ(株) FR201型	Acoustic ground detector	1	19	51	32	9
活動	A1904	地中音響探知器 D	ﾌｼﾞﾃｺ(株) FR201型	Acoustic ground detector	1	19	51	32	9
活動	A2009	投光器 D(1/2)	カネコＫＳＣ型（本体）	light	1	41	60	73	45
			発電機HONDA EX300改	equipment for rescue	1	-	-	-	-

分類	機材番号	機材名	部品名・品番等	英語名称	在庫数量	L	W	H	重量 kg
		投光器 D(2/2)	カネコＫＳＣ型（三脚）	Stands for light	1	115	15	20	-
活動	A2010	投光器 E(1/2)	日動工業 TN-P510CT（本体） ※収納ケース・予備球付	equipment for rescue		-	-	-	45
		投光器 E(2/2)	日動工業 TN-P510CT（三脚）	equipment for rescue	1	-	-	-	-
活動	A2011	投光器 F(1/2)	日動工業 TN-P510CT（本体） ※収納ケース・予備球付	equipment for rescue	1	-	-	-	45
		投光器 F(2/2)	日動工業 TN-P510CT（三脚）	equipment for rescue	1	-	-	-	
活動	A3003	ガス測定器	理研 GX-111X	equipment for rescue	1	-	-	-	5
活動	A3004	ガス測定器	理研 GX-111X	equipment for rescue	1	-	-	-	5
活動	A3101	携帯メガホン A	TKM-119	Portable megaphone	1	-	-	-	5
活動	A3102	携帯メガホン B	TKM-119	Portable megaphone	1	-	-	-	5
活動	A3103	携帯メガホン C	TKM-119	Portable megaphone	1	-	-	-	5
活動	A3104	携帯メガホン D	TKM-119	Portable megaphone	1	-	-	-	5
	A3204	救助用担架 D	ﾍﾞｽﾀｯﾄｽﾄﾚｯﾁｬｰ ﾓﾃﾞﾙ71 （被搬送者固定ﾍﾞﾙﾄ付）	equipment for rescue	1	-	-	-	15
	A3205	救助用担架 E	ﾍﾞｽﾀｯﾄｽﾄﾚｯﾁｬｰ ﾓﾃﾞﾙ71 （被搬送者固定ﾍﾞﾙﾄ付）	equipment for rescue	1	-	-	-	15
	A3206	救助用担架 F	ﾍﾞｽﾀｯﾄｽﾄﾚｯﾁｬｰ ﾓﾃﾞﾙ71 （被搬送者固定ﾍﾞﾙﾄ付）	equipment for rescue	1	-	-	-	15
活動	A3601	救助機材（1） A	ストライカー	Striker	3	-	-	-	100
-			スコップ（プロ用丸型）	shovel	3	-	-	-	-
活動	A3602	救助機材（1） B	ストライカー	Striker	3	-	-	-	100
-			スコップ（プロ用丸型）	shovel	3	-	-	-	-
活動	A4201	工具セット A	テイセン SK401M	Tool kit	1	26	51	30	14
活動	A4202	工具セット B	テイセン SK401M	equipment for rescue	1	26	51	30	14
活動	A5007	救助用レンジャーロープ	30m	equipment for rescue	4	-	-	-	20
活動	A5010	救助用レンジャーロープ	4m	equipment for rescue	30				20
活動	A5105	燃料携行缶 E		equipment for rescue	1	-	-	-	3
活動	A5301	手袋セット A	軍手	Working gloves	180	-	-	-	10
			使い捨て手袋（ﾃﾞｨｽﾎﾟｻﾞﾌｪﾁ手袋） 100枚/箱	Vinyl gloves	4	-	-	-	-
活動	A5302	手袋セット B	レスキュー手袋（皮手）	Rescue gloves	32	-	-	-	10
			ケブラー手袋	Rescue gloves	20	-	-	-	-
活動	A5303	手袋セット C	医療用ラテックス手袋 L （100双/箱）	equipment for rescue	4	-	-	-	10
			医療用プラスチック手袋 L （25双/箱）	equipment for rescue	20	-	-	-	-
			レスキュー手袋（皮手） F-2	equipment for rescue	8	-	-	-	-
			ケブラー手袋 K-8	equipment for rescue	49	-	-	-	-
活動	A5401	使い捨て防塵マスク	ハイラック 310型	Dustproof mask	90	-	-	-	10

分類	機材番号	機材名	部品名・品番等	英語名称	在庫数量	L	W	H	重量 kg
活動	A5601～5604	水中ライト	K138	Torch light	20	-	-	-	30
活動	A6100	ヘッドランプ	帝商　ペツルミクロ	equipment for rescue	20	-	-	-	10
活動	緊急調達	乾電池（単１）	アルカリ、有効期限２年以上	equipment for rescue	100	-	-	-	30
活動	緊急調達	乾電池（単２）	同上	equipment for rescue	100	-	-	-	30
活動	緊急調達	乾電池（単３）	同上	equipment for rescue	100	-	-	-	30
活動	緊急調達	乾電池（単４）	同上	equipment for rescue	100	-	-	-	30
生活	B4001	生活用資機材　22-A	ほうき等	Daily necessity	1	27	50	82	22
生活	B4002	生活用資機材　22-B	ほうき等	Daily necessity	1	27	50	82	22
生活	B4003	生活用資機材　22-C	ほうき等	Daily necessity	1	27	50	82	17
-	B4201	生活用資機材	文房具等	Torch light	1	-	-	-	20
生活	供与物資62年購入より	発電機　220V/60Hz		equipment for rescue	6	-	-	-	100
生活	供与物資平成７年購入より	コードリール　220V		equipment for rescue	12	-	-	-	60
生活	床置の２台	浄水器		equipment for rescue	2	-	-	-	60
生活	供与物資平成10年購入25枚／梱包×2	毛布		Blanket	50	-	-	-	80
		食料品		Foods	1				100
		下着類		Tshirts	1				50
	事務局から		〃　（マジックテープ式）	JDR emblem	100	-	-	-	-
									2,008

ケースNo.	品名	型式等	Items	数量	備考
	ﾊﾟｰｿﾅﾙｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ(Mac)	Power Book 1400c/133	PERSONAL COMPUTER	1	
	ﾊﾟｰｿﾅﾙｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ(Dos/V)	IBM Think Pad 385XD	PERSONAL COMPUTER	1	
	プリンター	ｷｬﾉﾝ BJC-80Y	PRINNTER	2	
	デジタルビデオカメラ	SONY	VIDEO CAMERA	1	
	カメラ	エスピオ　115M	CAMERA	2	ケースNo.1内
	デジタルカメラ	SONY マビカ	DIGITAL CAMERA SONY	1	ケースNo.1内
	デジタルカメラ	FUJI	DIGITAL CAMERA FUJI	1	ケースNo.1内
	インマルサット	Mini-M	INMARSAT	1	
	FAX	リコー	FAX	1	
	イリジウム		TELEPHONE	3	
	無線機	日立	Portable transceiver	14	
	JDRワッペン	マジックテープ式	JDR emblem	100	緑バック内
	フィルム等				緑バック内
	電源プラグアダプター			3	ケースNo.2内
	トランス			3	ケースNo.2内

東京消防庁からの貸与機材

No.	機材名	数量
1	シリウス	1式
2	レスキューツール	1式
3	削岩機（ピコ 14）	1台
4	ボーカメ NT450	2台
5	ボーカメ NT740	1台
6	レスキューサポートシステム	3台
7	防塵メガネ	70個
8	防塵マスク	70個
9	防塵マスク用吸収缶	210個
10	三連梯子	2本
11	投光器	2式
12	山文救助セット	6式
13	ロープ　50m	4本
	ロープ　20m	19本
	ロープ　10m	8本
14	懐中電灯	8個

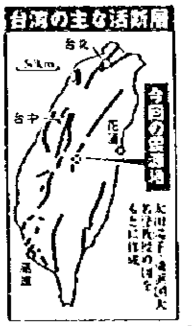
1999.9.22　読売新聞　朝刊

震源浅く活断層ズレ

台湾大地震「阪神」と共通点

台湾大地震は、内陸直下型地震の恐ろしさを改めて見せつけた。専門家は、世界有数の地震帯である環太平洋地震帯に位置し、日本と同様の地震[illegible]なだけに、浅く[illegible]活断層[illegible]という点も阪神大震災と共通点が多く、多くの犠牲者を出す要因になった（本文記事1面）

台湾に向け羽田空港を出発する災害救助犬（21日午後）



太田陽子・横浜国大名誉教授の図をもとに作成

エネルギー10倍

今回の地震の震源は台湾中央部の南投県。米地質調査所の解析によると震源の深さは約十キロと極めて地表に近い。東大地震研究所の菊地正幸教授は世界二十四地点の観測データを分析、地震の断層が二十八秒間に長さ八十キロにわたり約二㍍ずれて起こったことを突き止めた。この長さは阪神大震災の長さ四十キロの二倍で、地震のエネルギーは約十倍に相当するという。

また阪神大震災では断層が水平にずれる「横ずれ型」だったのに対し、台湾大地震は東西方向に圧縮されるひずみに耐えられなくなった東側の地盤が西側に乗り上げるようにずれた「逆断層型」だった。

台湾付近で衝突するユーラシアプレートとフィリピン海プレートは、日本付近と違って境界線が複雑で、はっきりしない。台湾の活断層を調べたことのある池田安隆・東大助教授（地形学）は「台湾島を含む幅広いゾーンがプレート間の境界となっている」という。台湾は数百万年前からプレート同士が東西から押し合い隆起してきたので、台湾の地盤に[illegible]・元東大地震研助手は「新たなひずみのしわ寄せが、すべて台湾島に集まる。いつ大地震が起きてもおかしくない」という。

台湾の地震の特徴として、島を東西に分けて見ると、一九三〇―八〇年に起きた有感地震（百三十八回）のほとんどが台湾東部で発生しており、今回の震源になった中西部は、比較的地震の発生が少ないところだった。しかし、多数の死者を出すような地震は今回のような台湾中西部地域に限られ、M6クラスの地震でもかなりの被害を出している。

台湾で地震被害調査の経験がある西川孝夫・東京都立大教授（建築学）は「建築基準は近年改訂されて厳しくなったが、それまでの規準は日本の半分以下だった。明瞭な鉄筋材料や、施工管理が甘いケースも多い。それらの原因が複合して大きな被害につながったのではないか」と話す。

また、亀田弘行・京大防災研究所教授（地震工学）は「台湾は地震工学の先進地。だが研究が進んでいるからといって、直ちに震災に安全というわけではない。これは日本が阪神大震災で思い知らされたことで、日本は同じ課題を抱えている」と警鐘を鳴らす。

地盤の問題もあるようだ。今回は震源から百五十キロ離れた台北でビル倒壊などの被害が出ているが、この辺りは「沖積層」とよばれる軟弱な地盤で覆われ、深さ五十㍍まで[illegible]硬い岩盤に届かない。このため、「周期が長めの地震波が強くなり、十―十五階建ての建物が共振し、被害が大きくなる」と[illegible]の[illegible]工学）は指摘している。

総額50万ドルの緊急無償援助

政府は二十一日、大地震に見舞われた台湾に対し、国交関係のない台湾との窓口の日本側窓口である「交流協会」を通じ、総額五十万ドルの緊急無償援助を行うことを決めた。被災地の復旧についても、被害状況を見ながら検討する。

日本の援助隊始動　台北

【新荘（台湾北部）21日＝長谷川聖二】大地震が起きた台湾で救助活動を行うため、日本政府が派遣した国際緊急援助隊の第一陣七十七人（救助隊六人を含む）が二十一日夜（日本時間同）、民間機で台北国際空港に到着した。

一行は夜、台北市郊外の台北県新荘市の十二階建てアパート倒壊現場での救助作業のため同市に向かい、三十人が同日深夜（日本時間同）、現地に到着し、活動を始めた。二十二日には第二陣三十五人も台湾入りの予定で、総勢百十二人規模となる。日本からは、このほか医療チームやNGOのスタッフも救助作業に加わることになっている。

現地入りした隊員らは、地元の消防隊らと作業について入念に打ち合わせ、退路を確保した人命検索用の一台とファイバースコープ四台で生き埋めになっている三十二人の救出などに当たる。隊員の一人は「二日間は徹夜で作業です」と表情を引き締めた。

日本援助隊の主な活動現場となる新荘市民安路の倒壊アパートは、鉄骨がむき出しになり、崩れ落ちた壁とともにたんすやテレビなど家財道具が散乱。投光器もサーチライトで現場を照らしながら、がれきを素手やたらいで取り除き、生存者の救出作業を続けている。

◇

政府が二十一日、大地震が発生した台湾に対し、警察、消防、海上保安庁などの百人規模の国際緊急援助隊を派遣することを決めたのは、国連人道問題調整事務所（OCHA）の要請を受けたもので、救助チームの派遣規模としては過去最大となる。第一、二陣の計七十一人が同日夜、台北入りしたのに続き、二十二日には第三陣の三十五人が加わり、被災者の救助活動などに当たる。政府は、既に派遣した国際緊急援助隊の調査結果なども踏まえ、今後、医師らで作る医療チームについても派遣する方針を固めている。国交関係がないことから[illegible]も、国交関係などから要請があれば派遣する方針だ。

地元テレビ局の女性記者は「日本から専門家が来てくれたので、心強い」と話していた。

日本の援助隊は台北を中心とする台湾北部で活動する予定だ。

医療チームやNGOも現地へ

台湾大地震の被災者支援のため、日本赤十字社の救援チームや民間団体が次々に台北に飛び立った。

日本の医療チームは二十一日夕の中華航空機で羽田空港を出発した。メンバーは日本赤十字社[illegible]の[illegible]さん（49）ら計五人。一方、先月のトルコ地震でも活躍した「日本レスキュー協会」や、犬の訓練[illegible]などを行っているジャパンケネルクラブでは、災害救助犬とともに訓練士を派遣した。兵庫県西宮市のNGO「日本災害救援ボランティアネットワーク」も同日午後、情報収集のためスタッフ二人が関西空港から出発した。

ミニ時典

米国の共和、民主の二大政党に対する第三勢力として1995年に創設された政党。92年の大統領選に無所属で出馬し、19％を得票、一大旋風を巻き起こしたテキサス州の億万長者ロス・ペロー氏が、連邦予算の均衡[illegible]・税制改革――などを党の公約に[illegible]した。

米改革党

[illegible]の政治不信を背景に二大政党批判を展開し、支持基盤の拡大を目指すが、96年の大統領選ではペロー氏の得票率は一けた台と低迷。来秋の大統領選の党候補者選出をめぐっても、党内部で[illegible]の知名度の高いジェシー・ベンチュラ・ミネソタ州知事がペロー氏に引退を勧告。共和党右派のパット・ブキャナン氏が改革党からの出馬を示唆するなど、"お家騒動"が話題になっている。（翔）

検索は http://www.yomiuri.co.jp/mini

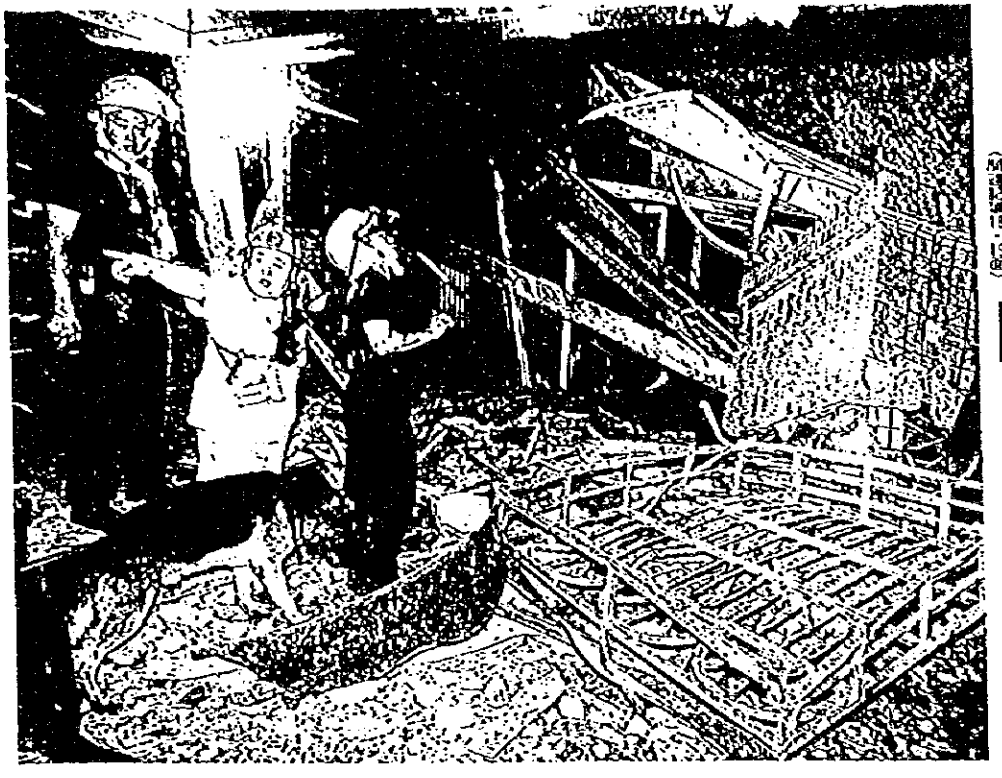
台湾大地震

国際救援活動が本格化

米露チーム、現地へ

（台北22日・河田雅明）台湾を襲った大地震から二日目の夜を迎えた二十二日、各地で余震が続く中、台湾当局は被害が最大となった台湾中部を中心に捜索、救援に加わる国際救援チームが、現地入りする。

（朝刊記事は・19面）



続く余震 死者・不明4900人超す

台湾当局は今回の地震の規模を「国際救援要請」とし、ようやく「国際大地震」と認めた。

二十二日午前八時十四分（日本時間同九時十四分）、台湾中部の観光地、日月潭の東方十五キロを震源とするマグニチュード（M）6・8の強い余震があった。余震はこのほかにも各地で断続的に続き、台湾中央気象台によると、二十二日午前十時半現在、二千百回を超え、うち四十五回が有感地震だった。

震源地の南投県や隣接する台中県を中心に被害は二十二日現在、死者千七百十六人、行方不明者三千二百十三人となっている。

家屋を失った人は、倒壊が相次ぎ十万人を超えており、多くの被災者は不安の中で一夜を過ごした。

日本隊第二陣出発

第一陣は台湾中部へ

台湾で二十一日朝に起きた大地震で、日本政府による国際緊急援助隊の第二陣三十五人が、二十二日午前九時、成田空港を出発した。アジアの拠点である台北へ出発した。第二陣は警察庁の捜査、海上保安庁などから構成され、同日昼過ぎに現地入り、台北近郊の建物の倒壊現場で被災者救助にあたる。

（写真＝（台湾北部）22日、農作物は一面、台北県新店市の村で「地震」のパパ＝共同通信社）

日本の国際緊急援助隊は二十二日朝、作業を打ち切り、災害救助犬五頭とともに被害の大きい台湾中部に向かった。

隊員らは九人一組になり、倒れた家の間に潜り込むなどして、ファイバースコープ四台を差し込んで、内部の状況を調べた。犬の一頭は倒れた建物の住人らが、手作業で崩れ落ちた壁などがれきを取り除いた後、二十二日午前三時半ごろから捜索を続けた人命救助隊「シリウス」を投入した。しかし、明らかな成果がもたらされなかった。

十日夕現在、二千百回を超え、うち四十五回が有感地震だった。

震源地の南投県や隣接する台中県を中心に被害は二十二日現在、死者千七百十六人、行方不明者三千二百十三人となっている。

家屋を失った人は、倒壊が相次ぎ十万人を超えており、多くの被災者は不安の中で一夜を過ごした。

台湾は二十二日も捜索活動が続く。台北市などは被害の少ない北部地域は、通常通りの出勤となったが、南投、台中県などでは二日続きで、自別休日となった。中部地域の学校も、全面休校が続いている。

台湾中部、北部一帯の約五百万戸に及んだ停電は、二十二日現在、復旧している。一部地域では断続的に停電が起きており、正常化には時間がかかる見通しだ。当局は民生用電力の供給を優先としているため、工業地帯への送電は先送りされている。工場の集中する北部の工業地帯への電力供給が、正常化するには早くとも二か月かかると見られ、台湾経済にも大打撃を及ぼすのは確実だ。

国際的な救援活動は、二十一日の日本の国際緊急援助隊の到着に続くもので、米本土を経由して出発した米国隊七十三人は二十二日、台北入りする。シンガポールの三十九人は韓国経由で同日夕、到着。ロシアの八十五人は同日、被害の大きい台湾中部の台中に着く。国連も緊急援助チームの派遣を決定、英国、スペイン、韓国、タイなども援助隊を申し出ている。各国チームは捜索犬や救助犬とともに台湾入りし、生き埋めになっている被災者の救助活動を始める。

台湾大地震救援募金

読売新聞社と読売光と愛の事業団は、22日から台湾大地震の救援募金を受け付けます。

募金は〒135-0024東京都江東区清澄1の2の1、読売光と愛の事業団「台湾大地震救援募金係」へ10月21日まで。「台湾大地震」と明記して、郵便振替（00100-3-127435）お振込み用紙で。寄付者氏名は名簿送付に利用します。匿名の受け付けはしません。　読売新聞社

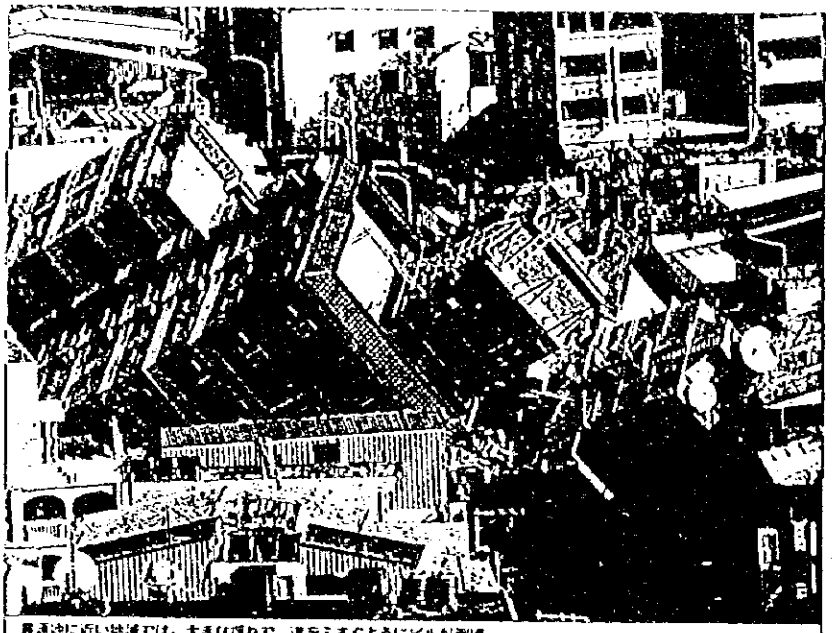
よみうり寸評

台湾大地震の現場に駆けつけ、日本の国際緊急援助隊は明日、台北に入って活動を始めたっ。ある時の友情の輪を広げていう◆日本と台湾の深い関係は改めていうまでもない。台湾の高齢者には日本語の達者な方が多い。父さんは「ジャニーズ」おばさんは「後藤久美子」の漢字を書く。今も使われているという◆八年前、一つ違って隣たちに「でんでんむしむしかたつむり」を教えて、大震災を乗り越えた人台湾月曜夕もある。多くの人たち、被災地の気にかける◆阪神大震災の教訓とも下敷きともいう緊急なエネルギーの大地震だ。阪神は新幹線が水平にずれる「横ずれ型」だったが、台湾は地震の地殻が垂直に盛り上がるようにしてずれた◆「逆断層型」といい、平らな土地の一方が二、三メートル高くなった。台湾はもともとユーラシアプレートとフィリピン海プレートが押し合って、隆起した島だという◆日本も台湾も同じ地震帯（地震帯）にある。トルコ大地震からまだ二か月余、今度は台湾で、地震の脅威は一層大きく知らされた。

復旧活動　余震におびえ

台湾大地震

停電610万戸、堤防には亀裂



震源地に近い地域では、大きな揺れで、道をふさぐようにビルが倒れていた／撮影・松沢竜一＝22日午前9時23分、台湾中部の東勢で

M7.6に修正

米地質調査所は二十二日（日本時間二十三日）、台湾中部で起きた大地震のマグニチュードを従来の7・5から7・6に修正した。

（台北22日＝渡辺雅彦）千七百人を超す死者を出した台湾大地震は発生から二日目を迎えた二十二日午前八時十四分（日本時間同九時十四分）と同八時四十九分に相次いで、震源とほぼ同じ場所でマグニチュード（M）6・8、6・3の強い余震が起きた。震源に近い南投県では震度6と観測され、最大の被害、死傷者は増えている。

（9・14・15面に関連記事）

内政部防災センターによると、二十二日正午（同午後一時）現在、死者千七百十二人、生き埋めなど行方不明百三十九人（三十七人）。負傷者は四千二十五人。

中央通信社によると、被災地に近い南投県の刑、日月潭で二十一日夜、観光の一部に損傷が見つかった。ホテルでは宿泊者も含め、二人が死亡したとのことで、当局は下流の住民に避難を呼びかけた。

被災地域の中に埋まっている市民の救援には、台湾軍約一万人のほか、日本、米国、シンガポールなど海外からの救援隊が続々と到着し、活動を続けている。一方、被害が少なかった地域では、早く余震に市民たちは緊張解けない

もの。一部学校の授業で学校が再開、民間企業も通常通りに営業を始めた。デパートでは被災者への募金が始まるなど市民生活が徐々に戻り始めた。

しかし台湾電力によると、午前八時現在、まだ台湾全体の約六割に当たる六百十万戸が停電している。台湾鉄道当局は、停電が続いているとから二十二日も同日に長き取引の停止を決めた。一方、行政院は被災者への見舞金支給を決め（約日七千万円）、遺族には二十万台湾ドル（約七十万円）、重傷者には二十万台湾ドルなど。政府機関は一カ月分の給料をカンパすることも決まった。

日本援助隊

夜通し活動

（台北22日＝渡辺雅彦）台湾大地震の現地調査のため日本政府が派遣した国際緊急援助隊の一行は七十人（二十一日から二十二日深夜）に分かれ、被災者の救出や行方不明者の捜索を開始した。台湾側の要請により、同日朝には台北大規模な被害に見舞われた台湾中部・南投県の現場に入った。

援助隊が目をつけたのは、ショッピングセンターなどが倒壊し、多くの人が生き埋めになっている彰化県鹿港市の十二階建てアパート。台北市内のトンネル崩壊現場と、台北市内の十二階建てホテル崩壊現場に分かれ、被災者の救出や行方不明者の捜索を開始した。台湾側の要請により、同日朝には台北大規模な被害に見舞われた台湾中部・南投県の現場に入った。

援助隊が目をつけたのは、ショッピングセンターなどが倒壊し、多くの人が生き埋めになっている彰化県鹿港市の十二階建てアパート。台北市内のトンネル崩壊現場と、台北市内の十二階建てホテル崩壊現場に分かれ、被災者の救出や行方不明者の捜索を開始した。台湾側の要請により、同日朝には台北大規模な被害に見舞われた台湾中部・南投県の現場に入った。

救助隊は、台湾の消防隊や警察、自衛隊などと共同で、エアカッターなどを使用して、ビルの壁を切り、内部の生存者の有無を調べている。

一方、日本赤十字社の救護隊（七人）によると、二日目（二十二日）午前、台北の災害救護センターに駆け込んだ。午後七時、台湾の救護隊に向かう。

中部の倒壊マンション　2児救出、歓声

（大雪市（台湾中部）22日＝中山由美）太平地区で地震から最度の救出作業が続いた。マンションは十二階建てで、十数戸あり、約三百六十世帯、千人以上が住んでいる。それらが崩れしになったり、崩れ落ちたりで、不明者の数の倒じ込められている人の数も、まだつかめていない。

一棟は中央から二つに割れ、片側は六〇度ぐらい傾いたままで、地上四階部分まで地下に陥没していた。マンション前では消防や救助隊員が交代で作業。家族や親戚が見守るなかで、二十二日朝、二人の子どもが救出された。

午前七時過ぎ、「6歳の子どもが中にいるんだ」と一人の父親が崩れかかった方の三階部分を指さした。自分でよじ登ろうとしたため、救助隊員が制し、隙間が救助に向かった。午前八時前、八歳の男の子をベランダから救い出した。

数分後、埋没した一方の建物二階部分から四歳の女児が助け出された。母親で

「よくがんばった」と言葉をかけられると、隊員が抱き上げ、周りから歓声が上がった。少女は泣きもせず、ショックで口ごもりもせない状態だった。

陥没した建物は四階部分が地表にあり、そこから救助隊員が入り、床や天井にドリルで小さな穴をあけ、下の階に手を伸ばして生存者を捜した。救出された男の子は、まだ救助されていない母親に向かって「ママ、ごめんなさい」と言葉をかけていた。

マンション内では二十一日午前六時ごろ、初めて生存者が確認されていた。ただ

現場で捜索隊員たちを待っている交渉員は北京市政府によると、日本からの援助隊は二日三十五人も、二十二日午前に台北に到着後、台湾側の要請に従い被災地に向かうという。

一方、日本赤十字社の救護隊（七人）によると、二日目（二十二日）午前、台北の災害救護センターに駆け込んだ。午後七時、台湾の救護隊に向かう。

現場で捜索隊員たちを待っている交渉員は北京市政府によると、日本からの援助隊は二日三十五人も、二十二日午前に台北に到着後、台湾側の要請に従い被災地に向かうという。

一方、日本赤十字社の救護隊（七人）によると、二日目（二十二日）午前、台北の災害救護センターに駆け込んだ。午後七時、台湾の救護隊に向かう。

1999.9.22　産経新聞　夕刊

「これからどうして…」

台湾大地震

ストレスも限界
「食べるものもない」

●台中

（台中（台湾中部）22日＝中村特派員）大地震から一夜明けた二十二日朝、台湾・台中市中部の阿平地区の被災者避難所では、家を失った住民の住民票、約八十人が放心状態でひっそりと過ごしていた。車や倒壊による行方不明者の捜索や救出作業は早朝から行われた。がれきの中からわずかに見える家具や洗濯車の残がい。主を失った犬が半壊した家屋の中で遠吠え続け、「家がこなごなになってなくなった。これからどうやって生きていけばよいのか…」と目を落とす住民の姿には、震災のつめ痕のぬぐえにじんでいた。

地震の直撃を受けた台中市では早うだった市内の道路が陥没した（22日午前9時半ごろ、大山文化撮影）

被災者の避難所はもともと市の施設。十以上の大型テントが張られ、ボランティアがおかゆなどの炊き出しをして被災者に配っている。被災者はいずれも家を失った人々。テントの中にしかれたなんに寝袋がぎっしりと並んでいる。

「地震はこわい。こんなに揺れるのを初めて経験しました。ずっと恐ろしくて、ただ時が過ぎるのを待っているようにとにかくじっとしていました」と話す。

避難所の人々は、ほとんどが自宅に戻れないまま、「家がなくなったので生活ができない。食べるものもない人ばかりです」とポツリと話す。

住民の山さんは、「これからどうすればいいのか。ストレスも限界。だからといってここに長くとどまるわけにもいかない。ストレスもたまって限界です」と話す。

避難所には子供の姿も多い。長期避難で精神的に追い詰められる子供もいれば、ひざを抱えて黙り込み、うつむいたままの子供もいる。小学校五、六年生の男子は「地震はこわくなかった。けど、家はなくなっちゃった。学校にいっけるのかわからない」と不安げな表情。

一週間前まで軍人を勤め上げ、やっと自分の家を買ったのに一瞬にしてその家がなくなってしまった。なんともやりきれません」と肩を落とす。

捜索や救出作業は早朝から行われ、一夜明けても続いている。

【世界の大地震】※カッコ内はマグニチュード

95・1・17	阪神大震	死者6424人(7.2)
5・28	ロシア・サハリン州北部	死者1995人(7.5)
97・2・28	イラン・アルダビル地方	死者約1500人(5.5)
4・4	イラン・コラサン州	死者30人以上 (5.4と5.1の2回)
98・2・4	アフガニスタン北東部	死者約4150人(6.1)
6・22	ボリビア中部	死者80人(6.8)
6・30	アフガニスタン北部	死者約4500人(7.1)
8・27	トルコ南部	死者110人以上(6.3)
99・1・25	コロンビア中西部	死者900人以上(6.0)
3・29	インド北部	死者100人以上(6.8)
8・17	トルコ西部	死者3万5000人以上(7.4)
9・21	台湾中部	死者1772人、負傷者4008人

＝日本時間22日午後1時現在(7.6)

日本人3人、連絡取れず

南投県

現地に進出している日本企業の中で電子部品大手の日本ケミコン（東京都新宿区）の日本人社員ら三人が二十二日になっても、連絡が取れていないことが分かった。同社は台中市から南投県の日本人社員を現地入りさせ、安否の確認を急いでいる。

同社によると、連絡が取れないのは同県に近い南投県にある現地工場に駐在している社員二人と家族一人。地震後に現地の資材員が社員二人の無事なを見ており、「家族ともに死亡はないと思われる」（同社広報）としている。

海外救助隊続々と到着

各地の倒壊現場へ

（台北22日＝矢島誠特派員）

今回最大の地震に見舞われた台湾に、各国からの救助隊が二十一日から二十二日朝にかけ続々と到着。各地の倒壊現場で生存者の救出に全力を挙げている。外交部（外務省に相当）によると、海外からの救援チームは合計二百五十人、救助犬十六匹に上っている。

日本からの緊急援助隊は四チーム七十七人と救助犬四匹。二十二日夜、台北入りし、直ちに台北市内の倒壊したホテル「夜マンション」の「太平洋大廈」と台北国際

台湾との対日になっている「交流協会」（東京都港区）によると、台湾に拠点を置く企業が進出しており、約一万三千人の日本人が在住している。二十二日までにほとんどの企業で社員と連絡が取れ、多人が死亡したとの情報は入っていないという。

住のビル倒壊現場などへ出発。救助犬やセンサー機器などを用いて調査した結果、二十二日朝までに生存者が残っていないことを確認したため、直ちに宿泊地の南投県へ向かった。

米国からも米のトルコ大地震救援活動に参加した救助専門家を含めた八十七人、六匹が米空軍機で台中に直接到着。トルコでの経験を生かして生存者の救出活動に全力を挙げている。

このほか、韓国、ロシア、ドイツ、スイス、シンガポール、イスラエル、それにトルコなどからも救援チームが到着。各国のテレビ各局は日本、米国などの救援隊を中心に各国からの救援チームの活動を報じ、台湾の人々とサイレンを鳴らして現場を指揮来する。住宅の安全点検は防災で日も続く。大部分を引き続き「安全」としている。

日本の緊急援助隊 台湾大地震で活動

「近さ」で迅速に対応

災害での貢献 実績積む

台湾大地震の被災者救出のため、政府の国際緊急援助隊が早速、現地入りし、活動を開始した。災害時の「顔の見える貢献」は着実に実績を積んでいる。

政治部 村尾 新一（本文記事一面）

台湾大地震では、警察、消防などを主力とする日本の国際緊急援助隊・救助チームの約七十人が、地震発生当日の二十一日夜に台湾入りし、台北郊外のアパート倒壊現場での救助作業などを始めた。海外の援助隊の中では一番乗りだった。二十二日午前六時過ぎから担当者が協議し、七時ごろに緊急庁、消防庁、海上保安庁へ派遣を要請。三庁は約一時間以内に人選を行ない、午前中には、メンバーの大半が羽田空港周辺に待機した。外務省も台北行きの航空機数使を確予約しておくなど、準備を整えていた。

国際緊急援助隊派遣法では、派遣には、派遣先国が国際機関などの要請が必要とされるため、形式的には台湾が二十一日午後二時半ごろ（日本時間）、ジュネーブの国連人道問題調整事務所に派遣を求め、同事務所から日本に要請があったことで派遣が正式に決まった。実際の人員六十人が派遣されているが、これまでうまくいかないケースもあった。救助チームとして初めて、十六人が派遣された九〇年六月のイラン大地震では、到着が大幅に遅れ、ほとんど動けずじまいだった。

ただ、最近はそうした反省材料を教訓に、トルコ大地震で、救助チームの活動史上初めて人命を救助するなど実績を積み上げてきている。国際緊急援助隊の参加が認められており、昨年十一月に中米・ホンジュラスに派遣された。

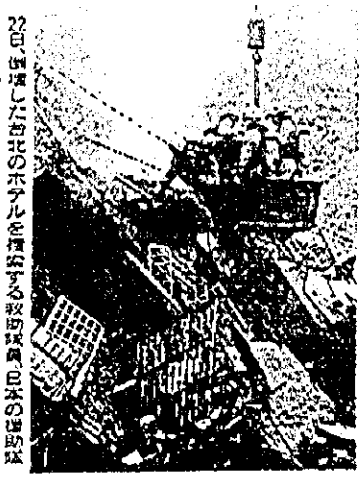
今回、これまで以上に迅速な対応が出来たことについて、政府は「アジアの災害は日本が積極的にやらなければ、メンツが立たない面もある」（外務省筋）と、台湾の地理的近さを強調する。警察、消防、海上保安庁が[illegible]

[illegible]

ただ、課題がないわけではない。今回と違い日本から地理的に遠い国や人種で大規模な災害が発生した場合、まず派遣隊員の輸送手段が問題となる。民間航空便が少ない場合、政府専用機の活用なども検討対象だ。

災害面で実績をあげる一方で、国連平和維持活動（PKO）などでの「顔の見える貢献」が依然として、まま、ならないのが日本の現状だ。東ティモールに展開された多国籍軍への人的参加についても、「PKO協力法に想定されていない」との理由で見送られた。国連平和維持隊（PKF）本体業務への参加凍結の解除も、ようやく議論が本格化したに過ぎない。

紛争解決や国際平和での国際貢献に関する体制整備を急ぐと同時に、今回の台湾大地震への派遣を土台に、国際緊急援助隊の人的、物的な体制整備も一層進める必要がある。



22日、倒壊した台北のホテルを捜索する救助隊員（日本の援助隊は、各国の緊急援助隊の中で現地に一番乗りした）（ロイター）

解説と提言

水、食料…配給に長い列

台湾大地震

四畳のテントに10人

被災者同士、助け合いも

台湾中部・埔里の南光国民小学校の校庭に設けられた避難所で飲料水の配給を受ける被災者（22日午後1時）＝[illegible]撮影

炊き出しや水の配給に長い列を作り、狭いテントに身を寄せ合う被災者たち。倒壊したアパートや民家には、今なお多くの人が取り残されている。大地震から三度目の夜を迎えた二十二日の台湾中部地域。「この状態がいつまで続くのか」。モノと情報の極端な不足が続く被災地では、余震の恐怖の中、人々の助け合いの姿も目立つ。一部地域では[illegible]も回復し始め、商店や食料なども出回され始めたが、水道、ガスなどの完全復旧のめどは立たず、復興の兆しはまだ見えない。（本文記事1面）

■ テント生活

台中市内では、余震を避けて庭先はテントで野宿する家族が増えている。民族会社員、陳正雄さん(33)一家は、夕方になると妻、二人の娘とともに自宅近くの公園のテントで眠る。自宅は電気、ガス、水道のすべてが止まり、炊事ができず、トイレも使えない。テントでは、カセットコンロを使って湯を沸かし即席めんを食べている。朝になると家に戻るが、「早く家に帰りたい」との気持ちは募るばかりだ。

公園にはこうしたテントが数張、数十張り出現するが、寝袋を五百台湾元（千七百五十円）で売る露店まで登場、「一日で四十張が売れた」という。

一方、同市の東、大里市内の成功国民中学校のグラウンドにも、市が配った赤やみなどの百張り近いテントが並び、二百世帯が不自由な生活を送る。近くの建設作業員、張紀雄さん(41)は四日前、妻(41)と子供三人とともにテント暮らしを始めた。

食料は市から配給のおかゆやビーフンのみ。飲料水も不足気味。毛布一枚をかぶり、地面に段ボールを敷いたテント内に寝る生活だ。陳さんは「これからどこへ行ったらいいのか分からない。公団住宅を安く貸してほしい」と訴える。（明石敦史、江上志朗）

■ 助け合い

避難所に近い国民学校の校庭、中心部にある南光国民小学校校庭では、被災者たちがテントを張って生活を始めている。四畳程度のテント内に数家族の家族十人ぐらいが肩を寄せ合う。校庭では、ペットボトル入りの水や牛乳などの飲料のほか、ビーフンなどの食料が大きな鍋などで炊き出され、配給を知らせると、被災者の長い列ができた。

厳しい生活だが、被災者同士が助け合う場面も見られる。路上で赤ん坊を抱いた母親が困っていると、そこに一人が水のやかんを持ち寄った。

また別の男性がポリ容器に水をためて持ってきて、中年女性がプロパンガスボンベとコンロを用意し、[illegible]のお年寄りの世話に当たった。

お年寄りを介護していた女性が配給物資を取りに行く時、手の空いた別の女性がお年寄りに寄り添い、介護をしていた。（西見太郎）

■ 救助隊

日本の国際緊急援助隊員七十人が二十二日、台湾に到着、被害が深刻な南投県で活動を始めた。取り組んだ地域は、十七人が取り残された四階建てのアパート。がれきの間にファイバースコープを差し入れて建物内部の状況を探り、心臓の鼓動をキャッチできる最新式の探知機を使ったり、救助犬「シリウス」や探知機などで生存者を捜した。

しかし、状況は厳しく、生存者の発見は難航。阪神大震災を経験した京都市消防局の救助隊長は「建物は思ったより頑丈。阪神大震災の倒壊現場よりひどいつぶれ方をしているところもある」と語りながら黙々と作業を続けた。（西見太郎）

倒壊ホテルの日本人女性

台湾男性と7月入籍

メールで交際、来月披露宴

【台北22日＝奥村健一】台北市当局は二十二日、地震で倒壊した同市八徳路四段のホテル「松山商旅」で行方不明となっている八十二人の名簿を発表した。この中には、七階住宅部分に日本人女性「山本郁子」さんが含まれていることが分かった。

関係者によると、山本さんは、夫の呉明潮さんと共通の友人の紹介で約一年前に知り合った。電子メールを通じた交際を経て、今年四月に山本さんが台湾に来て七月に入籍した。同ホテルの賃貸住宅に二人で住んでおり、十月十日には披露宴を行う予定だった。

夫の呉明潮さんも行方不明で、被災者の連絡先になっている政府の一階ロビーでは、呉明潮さんの姉の[illegible]さん(41)と[illegible]さん(36)ら親族六人が二人の救出を祈る思いで待っていた。

呉明潮さんの姉二人は「山本さんはとても利発で料理も得意。日本式のカレーライスや焼き飯、アップルパイなどをよく母親や私たちに作ってくれた。何とか早く見つかって欲しい」と、すがるような思いで話

九一年の台風19号に似ているとして、警戒を呼びかけている。同庁によると、中心の気圧は九六〇ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は四十五メートル、中心から半径[illegible]キロ以内が暴風域となっている。那覇市では午後六時四十分に最大瞬間風速五十七・二メートルに達した。

台風は中心付近の勢力を保ったまま、あす二十四日にかけて大雨の恐れが続くという。二十三日夜から二十三日夕にかけて予想される雨量は、九州南部と近畿で百－百五十ミリ、九州北部から東北にかけて八十－百二十ミリ。

台湾大地震救援募金

読売新聞社と読売光と愛の事業団は、22日から[illegible]

「[illegible]」へ。10月21日まで。「台湾大地震」と明記して、郵便振替(00100-3-127455)か現金書留で。寄付者氏名は各地域版に掲載します。物資の受け付けはしません。　読売新聞社

海外介護福祉

体験プログラム

【参加者募集中】

アメリカ、イギリス、オセアニアなどの老人ホーム・施設

1週間～1年間

20歳～65歳までの健康な方

V.I.P.東京事務所

日本政府 過去最大100人を派遣

台湾大地震 ハイテク駆使し救助

【台北22日若狭俊治】日本政府は22日までに、海外への災害派遣としては過去最大の100人を超す部隊を台湾大地震の被災地に送った。各国の大規模救助隊の中では、シンガポールとともに最も早く現地入りした。ハイテク機材を駆使した活動は地元でも高く評価されている。

日本隊がはじめに救助活動をしたのは、台北市に隣接する新荘市民安路の高層マンション倒壊現場。21日午前11時過ぎ、消防、警察、海上保安庁などの職員で構成された約70人が、1トンのレスキュー機材とともに空路から現場に直行した。

マンションは地上11階、地下2階建てで、震災で1階部分が根元から折れるような形で、完全に倒壊。日本隊メンバーは、5匹の救助犬を連れ現場入りした日本ケンネルクラブのボランティアスタッフと共に、生存者がいそうな所にファイバースコープを差し込んで内部の様子を探り、生存者の呼吸音を高感度でキャッチする装置「シリウス」を使った捜索などを行った。

しかし、現場では倒壊後に火災が発生していたこともあり、22日午前4時前に捜索活動を打ち切り、被害地周辺の現場に移動した。

生存者の救助はできなかったが、阪神大震災をきっかけに配備されたハイテク機材を使っての捜索活動への評価は高く、身ぶり手ぶりを交えながらともに作業を行っていた地元の救助隊員からは、「ありがとう」「謝謝」の声が日本隊メンバーにかけられた。

活動に立ち会った台湾中央防災会議専門委員、陳亮全・台湾大助教授は「阪神大震災を教訓にした日本の救援活動に学び、よりよい防災・救助システムを作っていきたい」と話した。

日本隊のほかにも22日前後から、各国の救援隊が続々と台湾入りしている。米国やドイツ、スイス、ロシアなどが台湾政府の要請に基づき、被災地の南投県などで地域分担しながら救助活動を続けている。古くから救助犬の伝統を持つスイス、水力式カッターなど最新器具を持ち込むシンガポールなど、各国ごとの特色を生かした活動ぶりだ。

英国、スペイン、イスラエル、韓国、タイも救助隊派遣の意向を表明。各国の救助隊派遣に台湾政府は感謝を表明し、台湾側の当局などと積極的に共同作業を行っていく方針を明らかにした。台湾のマスコミも好意的に取り上げている。

●各国の援助体制●

【ジュネーブ22日福島良典】国連人道問題調整事務所（UNOCHA）が22日まとめた各国、各国際機関の台湾大地震の援助体制は次の通り。

▽中国赤十字社＝現金10万ドルの寄付▽シンガポール＝海外救援特殊部隊や医師ら30人と災害救助犬4匹派遣▽米国＝救助隊83人派遣、救助機器を空輸▽ロシア＝救助隊70人、災害救助犬4匹、特殊車両3台など▽スイス＝救助隊員40人、災害救助犬9匹派遣▽英国、オーストリア＝合計で救助隊員や技術者30人を派遣。被害者捜索・救助用の特殊機器など空輸。

▽国連＝UNOCHAなどが現地の情報収集、連絡のために専門家6人を派遣▽国際赤十字社＝日本赤十字社などから医師ら8人派遣▽日本＝JICA（国際協力事業団）などが救援隊105人など派遣。

南北の断層2本が東西に圧縮され発生

原因推定

【台北22日共同】台湾の地質学者は22日までに、大地震の原因について、台湾の中央部を南北に並行して走る2本の断層が東西方向に圧縮され、ひずみに耐えられなくなったためと分析。地震によって西側の断層に最高5mの隆起が生じたことを明らかにした。

台湾紙、聯合報によると、地球物理学や地質学の専門家が調査した結果、フィリピン海プレートが2本の断層のうち東側の断層を押し上げ、並行して西側を走る断層を圧縮したため地震が発生したことが分かった。西側の断層は平均して1～2m隆起したという。

22日、南投県埔里で行方不明者の捜索にあたる日本の救助隊＝ロイター

原発1基が運転を再開

【台北22日ロイター共同】台湾電力は22日、台湾中部大地震で運転を停止していた同電力の3基の原発のうち1基の運転を再開した。残りの2基は3日以内に再開できる見通しという。しかし、同原発からの電力供給は震源地近くにある全焼した二つの変電所を経由しており、電力供給が完全に正常に戻るまでにはまだ2、3週間かかるとみられる。

激震 台湾—日本

同じ「痛み」…素早い救援

崩壊しつつあるビル、倒れたホテル……。[illegible]なことのできない光景が、眼前にある。台湾大地震は、日本に阪神大震災の悲惨な記憶を思い起こさせた。[illegible]被害を起こした[illegible]が、[illegible]の[illegible]救援隊は[illegible]。被災の痛みを共有しつつ、日本も支援[illegible]。

日本の国際緊急援助隊救助チーム[illegible]の一行は二十二日[illegible]、[illegible]の現場に到着した。[illegible]

一行の一人、ジャパン・ケンネルクラブ災害救助犬[illegible]によると、このうち一カ所のマンション[illegible]、コンクリートの[illegible]。[illegible]

これに先立ち、一行は二十二日未明にかけて、台北市内の十二階建ての[illegible]ビルの現場で[illegible]。しかし、[illegible]コンクリートの上部に[illegible]台湾中部へと転進したという。（[illegible]）

「日本一番乗り」海外メディアが報道

台湾大地震を伝える海外マスコミは各国の救出活動の競って「ジャパン」の名を挙げ、[illegible]について報じている。[illegible]日本にとっては[illegible]。

日本は今回、救助隊派遣でクリントン米大統領に後れを取ったものの、救援の[illegible]は早かった。

ＡＦＰ通信は二十一日夜、台湾外交部の[illegible]として「最初に到着したのは七十一人の救助専門家と六人の救助員からなる日本のグループで、当初は台北市の十二階建てビルの倒壊現場[illegible]やがて倒れた[illegible]住宅に力を注ぐよう求めた」と報じた。

二十二日には米ＣＮＮテレビが外国からの救出チームの台湾入りに触れ、「ジャパン」を真っ先に挙げ報道した。

[illegible]タイムズも「最初に到着したのは日本の七十一人の専門家、続いてシンガポールの三十八人、ロシアの[illegible]人七十三人だった…」と報じている。

（小金丸貴志）

被災地の[illegible]で、不安な夜を過ごす被災者たち＝22日午後1時50分（[illegible]）

22日、[illegible]で崩れたビルの中に生存者がいないか、捜索作業に当たる日本のレスキュー隊。[illegible]（ロイター）

平時の意識が「支え」に

「予知」の道 いまだ遠く

「いつ」「どこで」「どの程度の」地震が発生するのか。それを事前に把握して地震被害を最小限に食い止めようと、日本では三十五年前から地震予知の研究が続けられてきた。しかし、阪神大震災で予知の限界を悟り、日本の地震対策は「予知」から「予防」へ変わりつつある。

京都大学防災研究所の[illegible]教授によると、「三十五年の資料をもってしても地震の予知は「残念ながらまだ[illegible]の十分の一に過ぎない」という。

地震にはプレートとプレートの境界で発生するケースと、阪神大震災や今回の台湾の大地震のような内陸の活断層の動きによる地震がある。前者は周期的に発生することから数十年単位ならある程度、時間を予知して資料を出すことも[illegible]。

[illegible]

一方で新たな予知の手法を探る努力も続けられている。[illegible]工業大のグループは今年二月、京都府で発生したマグニチュード4の地震の予知に成功した。[illegible]アンテナでとらえ、三カ月前から発生を予告していたのだ。

[illegible]による予知は、[illegible]しかし、「因果関係は分かっていない」（[illegible]）ほか、発生[illegible]所が[illegible]から離れていると、ノイズで[illegible]も、予知の決め手にはなっていない。

政府は現在、[illegible]を予測し、[illegible]マップ作りを進めている。地震に耐えられる街づくりの基礎データを整えるためだ。（[illegible]）

知っています 1857

台湾救援募金

台湾で起きた大地震の被災者救援のため、産経新聞社は「台湾大地震救援募金」を実施しています。日本と親密な関係にある台湾の被災者の生活支援、その後の災害復旧に役立てられます。

【送金方法】現金書留[illegible]、郵便振替[illegible]。[illegible]での振り込みは手数料が無料になります。

1999.9.24　産経新聞　夕刊

危険度判定士　建物調査 急ピッチ

【南投（台湾中部）23日＝岩田智雄】台湾大地震では、余震が続くなか、被災した自宅に戻れない住民が不安な夜を過ごしているが、建築物の被害状況を調べ、建物内に戻っていいかどうかを判定する「建築危険度判定士」の活動が急ピッチで進められている。約千五百人の判定士が二十二日から被災地に入り、まず避難民が身を寄せている小中学校の校舎などを優先的に調査。また被災住宅も順次、「居住可能」から「進入不可能」まで段階別に判定する作業を続けており、地震発生から数十時間ぶりに自宅に戻る住民も出始めているという。

判定士は、台湾の建築家にあらかじめ登録していた建築、土木、耐震設計、防災などの専門家。二十三日も約千五百人が、被害の大きかった南投県を中心に、一戸ごとに建物や塀などの被損具合を調べて回った。

診断の陣頭にあたった李建築・台湾科技大教授（建築学）によると、活動初日の二十二日は、避難民が集まっている小中学校の建物を重点的に回った。このほか被災した住宅などを一戸ごとに判定し、「居住可能から進入不可能まで段階状況」を急ピッチで判定しているという。いったんダメージを受けた建物に余震が襲うと一気に崩れることもあり、安全確保を最初に掛かった住民などが被災する可能性もある。李教授は「一刻も早くおおまかな分類を行い、三日間で台湾の被災地域をカバーしたい」と話している。

李教授によると、今回の地震の犠牲者の多くは、阪神大震災と同様、建物によって押しつぶされた圧死である可能性が高いという。

また「震源地から遠い地域では、壊れた建物のほとんどが手抜き工事だった可能性がある」と指摘する。

台湾では、日本の阪神大震災などを教訓に、二年前から日本並みの厳しさを持つ耐震基準に移行している。

2次災害防止に「判定士」活躍

建築物の「危険度判定」制度に先鞭をつけたのは地震大国の日本だ。きっかけは、六千戸以上が被害を受けた宮城県沖地震（一九七八年）。岡田恒男・芝浦工大教授らが判定基準作りを進め、八五年のメキシコ地震（M8・1）で初めて活用。その成果に注目した米国が制度化に乗り出し、九四年のノースリッジ地震（M6・8）では、大規模に導入された「判定士」が、十日間前後で十万棟以上を検査、二次災害防止に大きな役割を果たした。

日本も九〇年度にマニュアルを作成し、判定士の資格認定制度を設けるよう全国の都道府県に求めてきた。阪神大震災などを経験している兵庫・神奈川県が制度化し、両県の判定士は阪神大震災でも活躍した。先月のトルコ大地震では、日本の専門家チームが判定の技術を伝授してきた。

120人不眠不休の活動
日本の救助隊 現地紙が絶賛

【台北23日＝河田卓司】日本の国際緊急援助隊は、二十一日に台湾に到着して台北入りした後、台北県新荘の崩れた大きい中層ビル、台中県に移動し、二十一日に約百二十人の救助隊が不眠不休で救出作業を進めている。日本隊は一番乗りに加え、人数も最大、さらに規律ある作業ぶりに台湾側の評価は高く、台湾各紙も「規律正しいプロフェッショナル」などと大きな扱いで報じている。

台湾各紙によると、日本隊の一部が二十二日夜から二十三日未明にかけて救助したのは、倒壊ビルの中の兄弟。民家が軒並み倒壊したところ。日本隊は救助犬を使って、日本式の三人一組、三十分交代で次々と作業を続け、約時間の作業の後に生き埋めの二人を発見した。しかし、残念ながら二人とも息はなかった。

日本隊の隊員たちは、男性の遺体に駆け寄る家族に向かって「兄さん、すみませんでした」と、生きたまま救出できなかったことを「謝罪」。周囲にいた人々は、その姿に感動した、と中時晩報は報じている。

台湾各紙、テレビは連日、このように日本隊の活動ぶりを紹介。最近のコロンビア大地震、トルコ大地震にも出動したことなど、有能、経験も含めて詳しい報道を行っている。

手抜き工事業者逮捕

【台北23日＝河田卓司】二十三日付の台湾紙「自由時報」によると、台湾中部・雲林県の検察当局は二十二日、大地震で大きな被害の出ている同県斗六市の住宅会社の責任者を、ビル建設に関して「手抜き工事」を行った疑いがあるとして逮捕し、同社を捜索した。

同社が建設を請け負ったビルのうち、アパート二棟、銀行ビルなどが倒壊。検察当局が現場を調査したところ、建物の柱や梁などの中に発泡スチロールや、サラダ油の空き缶などが置かれていたことが分かった。

日本チーム高まる評価

ハイテク機器に注目

日米露など14カ国から　特色生かし救援活動

半壊したマンションの床に穴をあけ、ファイバースコープで内部をのぞく レスキュー隊員 ＝南投県埔里（大山文宏撮影）

【台北23日＝野口東秀】台湾からの緊急援助隊は日米露など十四カ国となった。台湾に「国と国」の場を提供した感が集まっている。

だがでも、海外への災害派遣として最大級の陣容を組むチームを送った日本に対して、台湾での評価が目覚ましくなっている。

日本チームは救援隊の有力な安全、消防から構成され、第一陣（三十五人）も到着した。

台湾では、災害被災地のハイテク機材の不足が指摘され、早急な確保を求める声が現場や大学教授などの専門家から出ている。日本チームが最初に救助活動をしたのは、台北市に隣接の新店市のマンション倒壊現場。ファイバースコープや生存者の呼吸を追跡して探知する「シリウス」と呼ばれるハイテク機器、赤外線探知機、さらに大型の切断機器に住民の注目が集まっている。

一方、最新式の水力式カッターをもつシンガポールは海外救援部隊や医師、救助犬を派遣、米国、ロシア、ドイツ、そして近くから救助犬の歴史をもつスイスなど、各国の特色を生かしながら、救助隊、技術者、災害救助犬、特殊車両とともに、生存者の救出や医療作業に乗り出している。

京大調査団が出発

台湾大地震の発生メカニズムを調べるため、京大防災研究所の調査チームが二十四日午前、関西国際空港から、台湾に向けて出発した。

メンバーは同研究所付属地震予知研究センターのモリ・ジェイムズ、ジロウ教授と助手二人。

チームは二十五、二十六日の二日間、調査団の台湾中部・南投県に入り、地震所領や地震特性、断層運動と地震の関連などについて、現地の研究者らと合同で調査するほか、地震被害などについても現地を行うことにしている。

高い医療水準生かせず

ボランティアの連携必要

【埔里（台湾中部）23日＝野口東秀】大地震後、各国（地域）から続々と救援隊が駆けつけ、ボランティアの医療チームが続々と被災地入りしている。日本医療救援隊は民間団体の「国境なき医師団」（MSF）の日本人医師、福田敏さんら三人だけ。だが、福田さんは「現地での（ボランティアの）医療スタッフは十分足りている。その分、もっと早くもらいたい。でも、ノウハウができていない」という。

例えば、各国間によってカルテの記入方法が統一されていないうえ、医薬品のコントロールと、情報交換もできていなかった。

「カルテは患者そのもの。けが人の数や病状が把握できないのは危険だ」。福田さんのアドバイスで、まずカルテを印刷した。

野ざらしの医薬品もテントに運んで、ボランティアを始め、情報交換のシステムが生まれた。「これで現場の混乱はかなり改善されるはず」と福田さん。

新井さんは八月末までユーゴスラビア・コソボ地区で医療活動をしていた。

「コソボでは、WHO（世界保健機関）のコーディネートで、ボランティアと地元のスタッフが協力できた。こちらでは、ボランティア中心で、みんな集まって勝手に自分を配るといった感じです。連携が必要です」

埔里の診療所では、すでに四百人を治療した。地震で倒壊した病院で使ったりのところを救出された林三成さんは、日本語が話せ、福田さんに「日本から助けに来てくださったのですか、ありがとう」と涙ぐんでいたという。

林さんの息子と家族四人の安否は未だに分かっていない。「悔しいのは、がれきのなかに多くの人が埋まっていると聞くが、助け出されて来る人は少ない。現実がうまくいっていない」と福田さんは言った。

JICA